



学校法人 高田学苑

令和3年度
事業報告書

Annual report

Contents

法人の概要 . . . 2～9

建学の精神/教育方針/設置する学校、定員及び現員/役員・評議員/教職員数/組織構成図/
校舎敷地及び建物等の概要/学生・生徒志願者数推移/学生・生徒在籍者数推移（部門）/
学生・生徒進路状況

事業実績の概要及び進捗状況 . . . 10～17

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況/監査法人監査報告/安全管理への取り組み/
教職員の健康管理体制/教職員の表彰/教職員の異動状況/
給付型奨学金・授業料等減免（助成）・短期大学入学金免除制度/高田学苑クラブチーム事業報告

教育活動の実績及び進捗状況

－高田短期大学－ . . . 18～36

時代・社会の変化に即応した取り組み

学士力向上を目指した教育課程の展開/自己点検・自己評価の取組/

主体性・協調性を育む短大生活支援/キャリア教育・キャリア支援の充実/学生募集と高大交流事業/
外国人留学生支援について

地域への社会貢献事業

地域連携施設

仏教教育研究センター/育児文化研究センター/キャリア研究センター/介護福祉研究センター
施設設備の整備事業の実績

－高田中学校・高等学校－ . . . 37～54

命の大切さを考える教育の推進/人権教育研修の推進/きめ細やかな学習指導の推進/

ICT教育とアクティブラーニング対策/キャリア教育の推進/大学との連携事業/

部活動の推進/危機管理・安全教育への取り組みの推進/国際理解教育推進/

学校自己点検・学校関係者評価/

教職員資質向上への取り組み（初任者研修、学内研修、中堅研修など）/

生徒募集活動/施設設備の整備事業の実績

財務の概要 . . . 55～65

資金収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）

活動区分資金収支計算書の概要（全体）

事業活動収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）

令和2年度補助金一覧表

貸借対照表の概要

財産目録

法人の概要

建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。



教育方針

短期大学

本学では「教育基本法」ならびに「学校教育法」にのっとり、本学の建学の精神・教育の理念に基づいて、少子化・子育て困難、超高齢化、そしてIT化が進行する現代社会からの要請にこたえ、高度な専門知識や技術・技能を身につけて「やわらか心」で地域社会に貢献できる保育者、介護福祉士、オフィスワーカーを育成することを教育目標としている。



中・高等学校

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信・表裏相応を校訓とし、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。



設置する学校、定員及び現員

- ◆ 高田短期大学 三重県津市一身田豊野 1 9 5
- ◆ 高田高等学校 三重県津市一身田町 2 8 4 3
- ◆ 高田中学校 三重県津市一身田町 2 8 4 3

(令和3年5月1日現在)

高田短期大学					
学科名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	合計
子ども学科	150名	300名	191名	130名	321名
キャリア育成学科	100名	200名	95名	93名	188名
〔 オフィスワークコース	〔 60名	〔 120名	〔 71名	〔 68名	〔 139名
〔 介護福祉コース	〔 40名	〔 80名	〔 24名	〔 25名	〔 49名
合 計	250名	500名	286名	223名	509名

高田中・高等学校						
	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田高等学校	560名	1,680名	568名	580名	567名	1,715名

(学則定数 730名)(3ヵ年計 2,190名)

	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田中学校	190名	570名	190名	203名	193名	586名

(学則定数 240名)(3ヵ年計 720名)

役員・評議員

(令和3年5月31日現在)

理事		定数10名 実数9名	
区分	氏名	現職等	
第1号 宗務総長	増田 修一	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥 梅林 久高 鷺尾 尚史	学校法人高田学苑 理事長(学苑長) 高田短期大学 学長 高田中・高等学校 校長	
第3号 評議員	井村 正勝 永井 玲子 志田 行弘 岩崎 克彦 松田 英明	井村屋グループ(株) シニア・フェロー 医療法人永井病院 理事 三重テレビ放送(株) 相談役 医療法人思源会 理事相談役 三重牛セキ販売(株) 代表取締役社長	

監事		定数2名 実数2名	
区分	氏名	現職等	
監事	下津 和文 山中 利之	下津醤油(株) 代表取締役会長 山中利之税理士事務所 公認会計士・税理士	

評議員		定数21～25名 実数22名	
区分	氏名	現職等	
第1号 宗務総長	増田 修一	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥 梅林 久高 鷺尾 尚史	学校法人高田学苑 理事長(学苑長) 高田短期大学 学長 高田中・高等学校 校長	
第3号 法人職員	鷺尾 敦 福西 朋子 宇河 晴美 高梨 正	高田短期大学 キャリア育成学科長 高田短期大学 子ども学科長 高田中・高等学校 副校長 高田中・高等学校 教頭	
第4号 功労者	井村 正勝 岩崎 克彦 千草 篤麿 小柴 弥生	井村屋グループ(株) シニア・フェロー 医療法人思源会 理事相談役 (福)高田真善会 報徳園 施設長 小柴産業(株)	
第5号 卒業者	松田 英明 倉田 栄治 伊藤 博康 稲田 直子	三重牛セキ販売(株) 代表取締役社長 (株)津ドライビングスクール 代表取締役 (有)平治煎餅本店 代表取締役 高田短期大学育児文化研究センター 学外研究員	
第6号 本山総務	弓削 弘嗣	(宗)真宗高田派総務	
第7号 学識経験者	永井 玲子 志田 行弘 雲井 敬 浜田 吉司 山田 瞳	医療法人永井病院 理事 三重テレビ放送(株) 相談役 三重交通グループホールディングス 監査役 (株)マस्याグループ本社 代表取締役 楠井法律事務所 弁護士	

教職員数

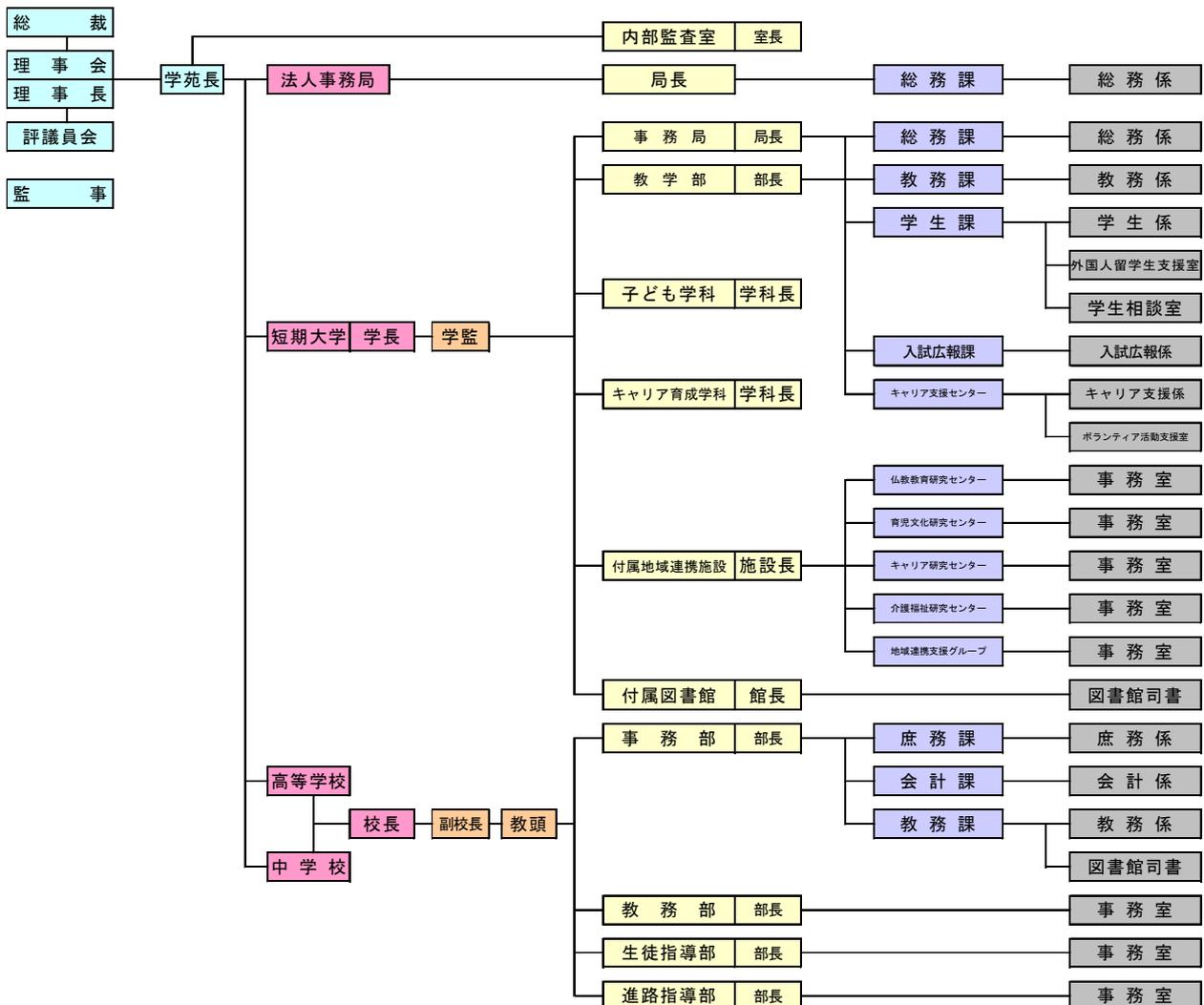
(令和3年5月1日現在)

		教 員		職 員		合 計
		本務教員	兼務教員 嘱託・非常勤等	本務職員	兼務職員 嘱託・非常勤等	
本 部		—	—	6名	1名	7名
短 期 大 学	子ども学科	16名	33名	14名	9名	72名
	キャリア育成学科	11名	39名	7名	8名	65名
	〔 オフィスワークコース 介護福祉コース	〔 7名 4名	〔 20名 19名	〔 6名 1名	〔 4名 4名	〔 37名 28名
高等学校		97名	36名	8名	14名	155名
中学校		31名	14名	3名	0名	48名
合 計		155名	122名	38名	32名	347名

(注) 学苑長は学苑本部の本務職員に、短大学長は子ども学科の本務教員に含む。

また、短大の兼務教員数には非常勤講師の後期採用者も含む。

組織構成図



校舎敷地及び建物等の概要

区分		専用面積㎡	計面積㎡	所在地	権利の所属	備考
短期 大学 用地	校舎敷地	7,399	7,399	津市一身田豊野	自己所有	
	運動場用地	5,921	5,921	〃	〃	
	学生用駐車場用地	2,392	2,392	〃	〃	
	その他	3,279	3,279	〃	〃	緑地等
	計	18,991	18,991			
上記 以外 の学 校用 地	中学校校舎敷地	1,274	1,274	津市一身田町他	自己所有	内 借用588㎡
	高等学校校舎敷地	15,180	15,180	〃	〃	内 借用578㎡
	中学校運動場用地	14,481	14,481	〃	〃	
	高等学校運動場用地	49,169	49,169	〃	〃	内 借用3,275㎡
	その他	9,875	9,875	〃	〃	内 借用1,663㎡
	計	89,979	89,979			
合 計		108,970	108,970			
校地以外の土地		61,913	61,913	津市芸濃町河内	自己所有	山 林

短期大学の部

区分	面積㎡	室数	構 造	権利の所属
1号館	3155.60	33	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	自己所有
2号館	4163.75	38	鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	〃
3号館	1743.64	15	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
音楽棟	858.82	23	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
図書館	803.19	8	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
体育館	1983.96	15	鉄筋コンクリート造アルミニウム板葺3階建	〃
部室	31.68	2	鉄骨造2階建	〃
その他	16.98			〃
計	12757.62	134		

法人本部、高等学校・中学校の部

区分	面積㎡	室数	構 造	権利の所属
本館	4721.83	36	鉄筋コンクリート造陸屋根7階建	自己所有
1号館	2722.10	25	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
2号館	2155.05	21	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
3号館	2609.31	13	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
4号館	3125.59	16	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
5号館	4113.15	29	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
管理棟1	207.23	5	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
管理棟2	98.88	4	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
厩舎棟	396.00	8	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
第1体育館	3819.78	16	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
第2体育館	1889.03	12	鉄筋コンクリート造切妻屋根3階建	〃
第3体育館	2081.54	6	鉄筋コンクリート・鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき2階建	〃
クラブハウス1	422.10	29	鉄筋コンクリート造2階建	〃
クラブハウス2	162.00	11	鉄筋コンクリート造陸屋根2階建	〃
施設管理棟	122.40	4	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平屋建	〃
その他	152.38			〃
計	28798.37	235		
合 計	41555.99	369		

備考（その他／機械室6.62㎡ 倉庫東、西47.95㎡ 渡り廊下67.50㎡ テニスコート部室30.31㎡）

学生・生徒 志願者数 推移

(令和3年5月1日現在)

短期大学		H29	H30	R1	R2	R3
子ども学科		189	184	134	141	254
キャリア育成学科	オフィスワークコース	77	79	77	71	81
	介護福祉コース	28	30	44	34	26
	計	294	293	255	246	361
高等学校		H29	H30	R1	R2	R3
		2,992	3,046	3,254	3,064	2,693
中学校		H29	H30	R1	R2	R3
		467	507	521	544	569

学生・生徒 在籍者数推移表

短期大学

(令和3年5月1日現在)

区分	項目	H29	H30	R1	R2	R3	
子ども学科	在籍生数	310	321	283	249	321	
	収容定数	300	300	300	300	300	
	充足率	103%	107%	94%	83%	107%	
キャリア育成学科	在籍生数	183	172	183	187	188	
	収容定数	200	200	200	200	200	
	充足率	92%	86%	92%	94%	94%	
オフィスワークコース	在籍生数	141	132	133	130	139	
	収容定数	120	120	120	120	120	
	充足率	118%	110%	111%	108%	116%	
介護福祉コース	在籍生数	42	40	50	57	49	
	収容定数	80	80	80	80	80	
	充足率	53%	50%	63%	71%	61%	
計	在籍生数	493	493	466	436	509	
	収容定数	500	500	500	500	500	
	充足率	99%	99%	93%	87%	102%	

中・高等学校

(令和3年5月1日現在)

区分	項目	H29	H30	R1	R2	R3	
高等学校	在学生数	1,790	1,814	1,782	1,775	1,715	
	収容定数	1,728	1,752	1,728	1,704	1,680	
	充足率	104%	104%	103%	104%	102%	
中学校	在学生数	573	599	604	605	586	
	収容定数	540	540	550	560	570	
	充足率	106%	111%	110%	108%	103%	
計	在学生数	2,363	2,413	2,386	2,380	2,301	
	収容定数	2,268	2,292	2,278	2,264	2,250	
	充足率	104%	105%	105%	105%	102%	

学生・生徒 進路状況

卒業生・進学者・就職者数

(令和4年5月1日現在)

	子ども学科	キャリア育成学科		合計	摘要
		オフィスワーク	介護福祉		
卒業生	128	68	24	220	
就職希望者	119	64	24	207	
就職決定者	118	63	24	205	
未内定者	1	1	0	2	
進学者	1	1	0	2	大学等
その他	8	3	0	11	家事従事等

過去3ヶ年の公務員試験合格者

●子ども学科

市町名	職種	現役学生			卒業生			計		
		R3	R2	R1	R3	R2	R1	R3	R2	R1
津市	保育士・幼稚園教諭	1	3	4	2	4	5	3	7	9
四日市市	保育士	0	2	1	1	0	0	1	2	1
伊勢市	保育士	0	0	2	0	0	0	0	0	2
松阪市	保育士・幼稚園教諭	7	8	12	1	0	1	8	8	13
鈴鹿市	保育士・幼稚園教諭	2	1	2	2	1	0	4	2	2
亀山市	保育士・幼稚園教諭	1	0	0	1	1	0	2	1	0
鳥羽市	保育士	0	3	2	0	1	0	0	4	2
志摩市	保育士・幼稚園教諭	0	0	1	0	0	0	0	0	1
伊賀市	保育士・幼稚園教諭	0	1	1	0	0	0	0	1	1
名張市	保育士・幼稚園教諭	0	1	1	0	0	0	0	1	1
菰野町	保育士・幼稚園教諭	0	0	1	0	0	0	0	0	1
川越町	保育士	0	0	1	0	0	0	0	0	1
大台町	保育士	0	0	1	0	0	2	0	0	3
玉城町	保育士	1	0	3	0	0	0	1	0	3
度会町	保育士	1	0	1	0	0	0	1	0	1
御浜町	保育士	0	0	0	0	0	1	0	0	1
弥富市	保育士	0	0	1	0	0	0	0	0	1
その他県外	保育士・幼稚園教諭	0	0	0	1	0	0	1	0	0
計		13	19	34	8	7	9	21	26	43

●キャリア育成学科 オフィスワークコース

採用試験名	職種	現役学生			卒業生			計		
		R3	R2	R1	R3	R2	R1	R3	R2	R1
県・市町	行政	0	1	0	0	0	0	0	1	0

主な就職先・配属先

(令和4年5月1日現在)

子ども学科		あおい幼稚園、エンゼル幼稚園、さくら幼稚園、道伯幼稚園、えがおあけぼの保育園、神戸保育園、清泉愛育園、津愛児園、ローズ幼稚園、倉持こども園、こどもの杜ゆたか園、ほうりん認定こども園、和順こども園、里山学院、みどり自由学園、市町立幼稚園・保育所 他
キャリア育成学科	オフィスワーク	三十三フィナンシャルグループ、(株)百五銀行、北伊勢上野信用金庫、JA共済連三重、扇港電機、(株)川崎ハウジング、(株)サイネックス、トランスシティコンピュータサービス(株)、三洋自動車(株)、トヨタカローラ三重(株)、ネットヨタ三重(株)、三重いすゞ自動車(株)、三重ダイハツ販売(株)、三重トヨタ自動車(株)、いおうじ応急クリニック、宇治山田歯科医院、坂倉内科医院、伊勢労務管理事務所 他
	介護福祉	あけあい会、永甲会、弘仁会、佐藤病院、緑の風、ヤナセメディケアグループ、白壽会 他

高等学校

卒業生・進学者・就職者数

		男	女	計
三年制	I類	65	113	178
	II類	96	111	207
六年制		89	90	179
計		250	314	564

進学合格者のべ数

		三年制				小計	六年制		小計	合計
		I類		II類			現	卒		
		現	卒	現	卒					
四年制学	国立	0	0	15	0	15	78	22	100	115
	公立	0	0	10	0	10	10	5	15	25
	私立	113	3	381	14	511	372	138	510	1021
文部科学省所管外		0	0	0	0	0	1	0	1	1
海外		0	0	0	2	2	0	0	0	2
短大	公立	4	0	7	0	11	1	0	1	12
	私立	36	1	8	0	45	0	0	0	45
国公立各種・専門学校		6	0	8	1	15	0	0	0	15
私立各種・専門学校		46	4	9	1	60	1	0	1	61
就職		2	0	1	0	3	1	0	1	4
合計		207	8	439	18	672	464	165	629	1301

主な進学先

(令和4年4月現在)

国公立大学 140名		(医学科 33)	
東京大学 8	京都大学 11	名古屋大学 12	三重大学 32
(医学科 1)	(医学科 1)	(医学科 2)	(医学科 20)
新潟大学 2	浜松医科大学 1	山梨大学 2	名古屋市立大学 3
(医学科 1)	(医学科 1)	(医学科 2)	(医学科 2)
大阪大学 6	北海道大学 2	東北大学 2	筑波大学 2
横浜国立大学 2	静岡大学 1	神戸大学 2	広島大学 3
私立大学 1021名		(医学科 31)	
慶應義塾大学 12	早稲田大学 21	上智大学 15	明治大学 22
青山学院大学 6	東京理科大学 16	立教大学 6	日本大学 12
法政大学 4	中央大学 19	東海大学 3	愛知医科大学 5
南山大学 29	中京大学 39	名城大学 35	近畿大学 43
愛知大学 17	愛知学院大学 24	京都産業大学 14	龍谷大学 46
同志社大学 54	立命館大学 60	関西大学 12	関西学院大学 17
関西医科大学 8	摂南大学 15	皇學館大学 51	鈴鹿医療科学大学 63
短期大学 57名			
高田短期大学 40	三重短期大学 12	関西外国語大学短大部 3	名古屋文化短期大学 1
専修学校 76名			
三重看護専門学校 11	ユマニテク医療福祉大校 3	津看護専門学校 2	松阪看護専門学校 3

事業実績の概要及び進捗状況

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況

令和3年度は高田学苑寄附行為に基づき、計6回の理事会、3回の評議員会を開催しました。また、高田学苑では私立学校に義務付けられている監査法人及び監事の監査に加え、内部監査委員による監査を行い、学校法人におけるガバナンスが適切に機能しているか、外部及び内部から監督・指導を受けています。令和3年度に行われた各会の開催日と議題は以下になります。

理事会	第1回	令和3年 5月28日(金)	・令和2年度決算(案)の承認について
	第2回	令和3年 5月28日(金)	・令和2年度決算(案)の承認について
	第3回	令和3年11月 5日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度第1回収支補正予算(案)について ・学校法人高田学苑勤務規則の一部改正(案)について ・学校法人高田学苑定年退職者の再雇用に関する規則の一部改正(案)について ・学校法人高田学苑退職手当支給規程の一部改正(案)について ・再雇用職員(講師及び非常勤職員)及び嘱託・非常勤講師等勤務規則の一部改正(案)について ・再雇用職員(講師及び非常勤職員)、短期大学に勤務する特任の教員及び嘱託・非常勤講師等給与規程の一部改正(案)について
	臨時	令和4年 1月 7日(金)	・高田短期大学学則の一部改正(案)について
	臨時	令和4年 3月25日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・高田中・高等学校第1・第2・第3体育館及び高田短期大学1号館空調設備工事に係る予定価格の決定について ・高田中・高等学校第1・第2・第3体育館及び高田短期大学1号館空調設置工事に係る請負業者及び請負金額の決定並びに請負契約の締結について
	第4回	令和4年 3月25日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・学苑長の任期満了に伴う任免について ・学校法人高田学苑の理事長の選任について ・令和3年度第2回収支補正予算(案)について ・令和4年度収支当初予算(案)について ・高田学苑中長期計画(案)について ・育児休業・介護休業等に関する規程の一部改正(案)について
	評議員会	定 時	令和3年 5月28日(金)
臨時		令和3年11月 5日(金)	・令和3年度第1回収支補正予算(案)について
定 時		令和4年 3月25日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度第2回収支補正予算(案)について ・令和4年度収支当初予算(案)について ・高田学苑中長期計画(案)について
監事会	決算期	令和3年 5月26日(水)	令和2年度短期大学及び中高等学校教学監査 令和2年度事業実績報告 令和2年度決算審査関係 質疑応答
	上半期	令和3年10月27日(水)	令和3年度短期大学及び中高等学校概要報告 令和3年度第1回補正予算書及び現預金状況 令和3年度事業実績報告(中間) 質疑応答及び実査
内部監査委員会	第1回	令和3年 5月25日(火)	令和2年度短期大学及び中高等学校教学監査 令和2年度事業実績報告 令和2年度決算概要報告 質疑応答
	第2回	令和3年10月22日(金)	令和3年度短期大学及び中高等学校概要報告 令和3年度事業実績報告(中間) 現金、預金及び有価証券の状況 学苑管理運営等について

監査法人監査報告

監査法人監査		監査法人名：五十鈴監査法人	
4月 5日（月）現金、通帳、証書の実査		10月 1日（金）令和3年9月までの取引記録	
5月 18日（火）令和2年度決算監査①		12月 8日（水）令和3年11月までの取引記録	
5月 21日（金）令和2年度決算監査②		2月 3日（木）令和4年1月までの短大取引記録	
6月 2日（水）令和2年度決算監査③		3月 22日（火）令和4年2月までの取引記録	

危機管理への取り組み（防災対策・新型コロナウイルスへの対応・安全運転）

AED（自動対外式除細動器）設置（10台）

短期大学	
1号館 1階正面玄関	体育館 2階ホール
中・高等学校	
本館 正面玄関（地域住民への対応）	西グラウンド管理棟 1 2階管理室
4号館 1階保健室	西グラウンド管理棟 2 2階管理室
第1体育館 2階体育教官室	西グラウンド厩舎棟 1階管理室前（外部）
多目的グラウンド クラブハウス横倉庫	第3体育館 1階ロビー



地域避難所（体育館）の指定・防災倉庫の設置

高田学苑は津地域避難所として指定されています。これに伴い短期大学及び中・高等学校に防災倉庫を設置し、備蓄品の保管をしています。

生徒・教職員は勿論のこと、地域住民の皆様方の災害時における危険回避のための避難が円滑に行われるように、避難場所の周知を行っています。



非常食等の備蓄

東海地域は、東海・東南海・南海の複合地震の発生リスクに対する懸念も高く、また近年では、台風や豪雨による風水災害が全国各地で頻発しており、いつ、どこで起こるかわからない災害に備えるべく、本年度も新入の学生生徒分の非常食等備蓄品「白い小箱」を購入しました。

この「白い小箱運動」は単なる非常食等の備蓄に留まらず、小箱の詰め込み・搬入作業を行う障がい者の方々の就労支援や、非常食等備蓄品を学生生徒が卒業時に寄付する事で、海外で援助を必要としている人たちや周辺地域の方々への援助など、社会貢献活動として意義のあるものとなっています。



コロナ禍における労働体制

令和3年度としては4月から三重県の感染者数は増加傾向にあり、5月9日（日）からまん延防止重点措置が適応されました。その後、7月に入って感染状況は落ち着いていましたが、一転7月下旬から感染者が増加し続け、8月26日（木）には過去最多の515人の感染が発表されました。これに伴い、三重県では緊急事態宣言の発令となり、8月27日（金）から9月12日（日）まで措置期間となりました。9月に入り、感染は減少に転じましたが1日の感染者数は100名を超える日が続き、依然として高い感染状況のため9月30日（木）まで宣言が延長となりました。短期大学としては夏季休暇期間中の為に大きな影響は免れましたが、中・高等学校は緊急事態宣言を受けて感染拡大防止の観点から夏休み明けの登校を見合わせ、主にオンラインと配布課題による自宅学習を基本とし、適宜出校日を設けるといった対応を行いました。教職員についても、在宅勤務及び時短勤務へ変更し、必要に応じて出勤を行うことで、出勤者が最小限となるよう対応を行いました。また、昨年度同様に常勤・非常勤を問わず、出勤日数に関わらず休業補償をしました。

健康観察

文部科学省より示されている新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営のためのガイドラインに基づき、教職員・生徒ともにWEB上で健康観察を実施しており、「体温」、「体調」、「家族の発熱」の3項目についての提出を継続して実施しています。回答データは学苑本部で集計し一括管理され、日々の状況を確認しています。

安全運転の推進

日頃より、通勤はもちろんクラブ活動等で自動車を運転する機会も多く、学生生徒が同乗することもあるため、事業所として運転記録の把握を行い、安全運転の励行と管理に努めています。この取組みが評価され、自動車安全運転センターより優良事業所として表彰を受けました。今後も継続して教職員の安全運転管理を推進していきます。



教職員の健康管理体制

健康診断・任意検診

本学は平成23年度より夏期休暇中に健康診断を実施しています。

令和3年度は、検診時の密閉・密集・密接を避け、混雑緩和を目的に、昨年度までより1日受診日程を増やし、8月24日（火）、25日（水）、26日（木）、27日（金）の4日間で開催しました。学校保健安全法、結核予防法、労働安全衛生法などで定められた検査項目を遵守し、教職員226名が受診しました。昨年コロナ禍の経験を活かすと共に、三重県健康管理事業センターの協力のもと3密を避け、徹底した感染防止対策を実施した上で検診を実施することができました。これまでの取り組みである胃・大腸・前立腺・卵巣・膵臓・消化器系のがん検査や腹部エコーや乳エコーは継続して行い、その上で今年度は新たに脳・心筋梗塞、認知症リスクの血液検査を追加しました。また、一昨年より始めた巡回型人間ドックについても多数の受診希望がありました。

任意検査については毎年のように検査可能項目を充実させ、個人にオーダーメイドな検査となるよう取り組んできました。より詳細な検査を受けることで教職員が自身の健康について向き合う機会となるよう今後も努めていきます。検査結果は個人に直接通知され、教職員の健康管理に役立てると共に、この結果をもとに高田学苑産業医である岩崎病院に健康管理に役立つ適切な指導・助言を行っていただいております。



ストレスチェック

労働安全衛生法の改正により平成27年12月から事業所に義務付けられ、メンタルヘルス不調を未然に防ぐ目的から今年度は6月1日（火）より一ヶ月間、ストレスチェックをウェブ上で実施しました。教職員は質問項目に回答し、結果は産業医へデータで送られ、高ストレス判定者へは産業医から直接連絡される仕組みとなっており秘匿性が担保されたうえでケアが行われます。教職員自身のストレスへの気づきを促すとともに職場環境の分析と改善に繋げていきます。

インフルエンザ予防接種

平成28年度から毎年実施しております学苑内での予防接種ですが、今年度も三重県健康管理事業センターに来校いただき、11月11日（木）、11月19日（金）の2日間にて実施を行い、希望した124名が接種を受けました。予防接種の費用についてはこれまで同様に学苑が一部負担となります。

教職員の表彰

特別表彰			
中・高等学校	11月 1日（月）	計 2名	
優良教職員	教諭 1名	三重県私学総連合会	優良教職員表彰受賞による
	教諭 1名	三重県知事	三重県文化新人賞受賞による

永年勤続表彰			
短期大学	11月 8日（月）	計 6名	
45年勤続	1名	30年勤続	1名
25年勤続	1名	10年勤続	3名
中・高等学校	11月 1日（月）	計 25名	
40年勤続	2名	35年勤続	2名
30年勤続	1名	25年勤続	5名
20年勤続	4名	15年勤続	5名
10年勤続	6名		

教職員の異動状況

令和3年度に採用・退職となった教職員は以下のとおりです。

		採 用			退 職	
		新規採用	再雇用	任用替	再雇用	完全退職
短期大学	教授		1			1
	准教授				1	
	講師	1				2
	本務職員		1		1	1
	特任教授	1				
	特任准教授		1			
	特任講師	2				
	嘱託職員	3				3
	非常勤職員					1
中・高等学校	教諭	2	2	6	4	1
	本務職員		2	1	2	1
	講師		1			1
	講師嘱託	4				
	嘱託職員					1
	非常勤講師	7	1	1		7

給付型奨学金・授業料等減免（助成）

高田学苑では、保護者や学生の経済的な負担を軽減する目的から、各種奨学金・授業料等減免制度を設けています。なお、これらの奨学金は給付型であり、すべて返済不要です。

高田短期大学介護福祉士就労予定者奨学金	
対 象	キャリア育成学科介護福祉コース学生
目 的	建学の精神に照らし、特に学業・人物に優れた学生で卒業後介護施設に就職する予定であるすべての学生（外国人留学生を除く）を支援する。
決定者	7名（1年生5名、2年生2名）
奨学金額	1,400,000円（一人あたり年額20万円給付）
高田短期大学奨学金私費外国人留学生授業料等減免措置	
対 象	高田短期大学に在学する私費外国人留学生
目 的	授業料・施設設備整備費・教育充実費等の経済的負担を減免する。
決定者	39名（減免率についてはGPAと出席率によって決定）
奨学金額	10,356,000円

短期大学入学金免除制度

高田高等学校を卒業し高田短期大学に入学する場合、入学金（28万円）が免除される制度もあります。過去3カ年の高田高等学校からの進学者数は以下のとおりです。

	令和元年度入学	令和2年度入学	令和3年度入学
人 数	37名	36名	40名

高田学苑 クラブチーム事業報告

令和3年度 みえ高田FC

三重県の高等教育機関魅力向上補助事業の採択を受け、県内の中学・高校・短大生と社会人から構成される女子サッカークラブチームとして平成27年度に設立され、全国でも珍しい学校法人が運営する女子サッカークラブチームです。監督には、元なでしこジャパンの宮本ともみ氏を起用し、県外流出が続くトップアスリートの受け皿になると共に、地域に根づきつつサッカーを通じて世界を舞台に活躍できる優れた人材を育成することを目的として活動を行っています。



平成28年度からは県内リーグへ参戦し、平成30年度には県内リーグで上位にランクイン、また全日本U-15女子サッカー選手権東海大会に出場できるまでに成長し、今後も活躍が期待されます。

昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和3年度前半はリーグ戦や主要な大会が延期や中止となっていました。緊急事態宣言が終了となった9月末以降から徐々に試合が開催されはじめ、年度中の試合を概ね戦うことが出来ました。2021年度三重県女子サッカーリーグでは9試合中8勝して2位となったほか、全日本U-15女子サッカー選手権大会三重県予選では決勝において延長戦まで戦いましたが惜敗となりました。また、公益財団法人日本サッカー協会が主催するU-15女子サッカーリーグへの出場を懸けた参入戦で勝ち星をあげる等の成績を収めることができました。新たな年度においても上位大会での勝利を目指して活動を続けていきます。

【 試合日程・試合結果一覧 】

大会名	対戦相手	日時	結果
2021年度三重県女子サッカーリーグ第1節	ヴァイティン三重レディースユース	7月3日(土)	○ 8 - 0
全日本U-15女子サッカー選手権大会三重県予選 準決勝	伊賀FCくノー三重サテライト	8月8日(日)	○ 3 - 0
全日本U-15女子サッカー選手権大会三重県予選 決勝	楠クラブレディース	10月17日(日)	● 1 - 1 (EX 0 - 1)
2021年度三重県女子サッカーリーグ第2節	四日市南高校	11月6日(土)	○ 11 - 0
2021年度三重県女子サッカーリーグ第3節	四日市西高校	11月23日(火)	○ 1 - 0
2021年度三重県女子サッカーリーグ第4節	伊勢FC Puro	11月27日(土)	○ 11 - 0
2021年度三重県女子サッカーリーグ第5節	鈴鹿グローリィ	12月5日(日)	○ 4 - 0
2021年度三重県女子サッカーリーグ第6節	伊賀FCくノー三重サテライト	12月18日(土)	○ 3 - 0
2021年度JFA U-15女子サッカーリーグ2021東海 参入戦1節目	FC Enfini ROSA	令和4年1月16日(日)	○ 4 - 0
2021年度三重県女子サッカーリーグ第8節	ルビナ四日市	令和4年3月26日(土)	● 2 - 4
2021年度三重県女子サッカーリーグ第9節	FCミナス	令和4年3月27日(日)	○ 5 - 0



令和3年度 みえ高田VC Sala

2021年の三重とこわか国体に向け、平成28年度に県内初の社会人バレーボールのクラブチームとして発足しました。春高バレー三重県大会で幾度も優勝へ導いた実績のある秋津修監督の指導のもと、一昨年度には全国大会3位という成績を収めるまでに成長しましたが、昨年度からのコロナ禍の影響により試合が中止となるなか、三重とこわか国体やVリーグ参入を目指し、男子サッカー・バレーボールのクラブチームを運営するヴィアティン三重と統一チームを作り、練習活動を続けていました。しかしながら、令和3年度に開催予定であった三重とこわか国体も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、残念ながら中止となりました。今後は、ヴィアティン三重はVリーグへ参戦する方向で活動を続け、みえ高田VC Salaとしてはクラブチームとして、これまで同様に社会人バレーボール大会への参戦を継続し、三重県下のバレーボール競技の発展となるよう活動を続けていきます。

時代・社会の変化に即応した取り組み

1 学士力向上を目指した教育課程の展開

共通教養科目の充実に向けて

「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」で示した「共通到達目標（全学的学修成果）」に対応し、教養教育の充実に図るため、令和元年度から共通教養科目として新たに自然科学分野及び社会科学分野の2科目を追加し、計14科目を設置しました。また、初年次教育の一環として開設した「スタートアップゼミナール」において、各学科・コースがそれぞれ教育内容を工夫するとともに、共通教養科目検討委員会等において、不断の見直し・検討を行いました。また、コロナ禍において実施が困難となった海外英語研修についても検討を行っています。

学則の変更（新教育課程の実施・作成）

子ども学科について、令和元年度入学生から、文部科学省教育職員免許法等の改正及び厚生労働省保育士養成課程の見直し等を踏まえて作成した新教育課程を実施しています。

キャリア育成学科介護福祉コースについては、令和3年度入学生から、「厚生労働省介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」に対応した新教育課程を実施しています。

キャリア育成学科オフィスワークコースについて、令和5年度を目途に新教育課程を検討しています。

新型コロナウイルス感染症への対応

令和2年度当初より本格的な感染拡大となっている新型コロナウイルス感染症への対策及び実習期間の延長に伴う授業期間の確保対策として、一部授業を遠隔授業として配信、対面授業時間割を柔軟に変更し、感染症への対策とともに学生本位となる授業の効果的な実施による学修機会の確保・両立に努めました。また、LMSを用いた遠隔授業のクオリティ向上のために教員向け研修を行うなど不断の努力を継続しています。

2 自己点検・自己評価の取組

認証評価

本年度、（一財）大学・短期大学基準協会による第3クール目となる認証評価を受けました。

認証評価は、高等教育機関である短期大学の水準について、設定された短期大学評価基準を満たしているか否かで評価するもので、7年に1度義務づけられています。

評価の在り方は、同協会の会員短期大学に培われた専門的見地に基づくピア・レビューを主体とします。同協会が行う認証評価において適格の判定を受けた短期大学は、高等教育機関としての質が保証されていることを示されているものです。

昨年度より自己点検・評価委員会において、山口ALOを中心に「自己点検・評価報告書」作成の準備を進め、6月に大学・短期大学基準協会および評価員4名に報告書及び資料を提出しました。

そして、9月20日（月・祝）、21日（火）の2日間に亘り、コロナ禍のため訪問調査に代わりZOOMによるオンライン会議形式による面接調査を受けました。

1日目（9月20日）は、基準Ⅰ（「建学の精神と教育の効果」）、基準Ⅱ（「教育課程と学生支援」）、基準Ⅲ（「教育資源と財的資源」）についての評価を受けました。

2日目（9月21日）は基準Ⅳ（「リーダーシップとガバナンス」）についての評価及び学生インタビュー、その他1日目の追加質問等が行われました。

評価員は4名で、本学からは、理事長、監事のほか、自己点検・評価委員である学長、A L O、両学科長・コース長および各委員長・センター長、事務局長、教学部長、総務課長が各セッションに応じて出席しました。

令和3年度（一財）大学・短期大学基準協会による認証評価の結果、令和4年3月11日付けで、「適格」と認定されました。

特に優れた試みと評価できる事項として、「建学の精神」「内部質保証」「教育課程」「学生支援」「人的資源」「物的資源」「学長のリーダーシップ」の7領域8件の事項が取り上げられました。



3 主体性・協調性を育む短大生活支援

(1) 新入生研修

日 時 4月22日（木）

会 場 （子ども学科） 本学

（キャリア育成学科） COCOPA RESORT CLUB

白山ヴィレッジゴルフコース（津市白山町川口6262）

研修内容 新入生研修をとおして、短大生としての自覚・自立心および協調性を養うとともに、学生・教職員相互の理解と親睦を深めることにより、今後の短大生活をより有意義に送れるようにすることを目的としています。今年度は新型コロナウイルス感染防止のため宿泊は行わず、会場も密を避けるため学科ごとに別会場での実施となりました。



(2) 学生自治会主催イベント

本学伝統の自治会活動では、2年生の執行部役員に加え、1年生から学生自治会サポートメンバーを募り、各学生が自らの役割を考えて行動し、課題を解決していく「異学年共同コミュニティ」の形成を目指しています。自治会活動を教職員が支え、年間を通して種々の行事を企画していますが、今年度は昨年度に引き続きコロナ禍により中止や縮小となる行事もありました。

① TJC祭（スポーツ大会）

日 時 5月15日（土）

場 所 本学体育館

内 容 令和3年度は中止

② 学生自治会主催 抽選会

日 時 （第1回）7月12日（月）・13日（火）

（第2回）11月22日（月）・23日（火・祝）・24日（水）

場 所 2号館1階学生ロビー

内 容 学内コンビニと連携し、学内コンビニで買い物をした学生を対象に学生自治会が抽選会を行いました。



③第55回高短祭

日 時 10月24日（日）

内 容 令和3年度は中止

④自治会主催行事（新年会）

日 時 令和4年1月22日（土）

内 容 令和3年度は中止

(3) 学長と学生自治会執行役員との懇談会

日 時 7月5日（月）14：40～

場 所 第4会議室

出席者 梅林学長、執行委員13名、教職員9名

内 容 学生との意見交換や、学生からの要望等の聴き取りを行い、改善策について検討しました。

1) 高短祭について

2) 学業及び学生生活全般に関する意見交換

※1月に予定していた次年度役員を含めた懇談会は中止

4 キャリア教育・キャリア支援の充実

キャリア教育の推進

各学科・コースの特色に応じて、教養科目・専門科目の各授業と就職ガイダンス、プレ就職講座、就職講座を関連づけ、キャリア教育を推進しています。

2021年度 入学生（1年生）	子ども学科	就職ガイダンス	3回実施	
		キャリアスタディ	8回実施	
	キャリア育成学科			
	オフィスワークコース	プレ就職講座	2回実施、	就職講座 6回実施
	介護福祉コース	プレ就職講座	1回実施、	就職講座 2回実施
2020年度 入学生（2年生）	子ども学科	就職講座	4回実施	
		公務員二次・三次対策講座（複数）		
	キャリア育成学科			
	オフィスワークコース	就職講座	4回実施（コースフォローアップ講座、 就職前講座を含む）	
	介護福祉コース	就職講座	3回実施	

公務員試験対策

（1）教養試験対策講座（受講者数）

	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
1年生	90人	83人	80人	130人	145人
2年生	50人	46人	53人	32人	52人

2021年度入学生（1年生）は、令和3年9月 8日（水）から
令和4年3月11日（金）まで21回実施

2020年度入学生（2年生）は、令和3年3月25日（木）から
令和3年7月27日（火）まで13回実施

（2）保育専門対策講座 2年生 令和3年3月22日（月）～令和3年3月26日（金）：計7回実施
1年生 令和4年1月11日（火）～令和4年1月25日（火）：計3回実施

（3）数学対策講座〔非常勤講師：2年生（4月～計10回実施）、1年生（10月～計20回実施）〕

学生への就職支援

キャリア支援センターには、キャリアカウンセラー1名、キャリアサポーター5名が配置され、センター長と庶務担当を合わせて総勢8名の職員が、学生の進路相談や就職活動などについてきめ細やかな支援を行っています。



卒業生への支援と早期離職の防止対策

生涯キャリア支援を旗印に、離職したり、仕事上の悩みなどで相談に来たりする卒業生に対して、卒業後も継続して支援を行っています。早期離職防止対策については、2月18日（金）、各学科コース別に指導しました。

「キャリアカルテ」の活用等による協働型キャリア支援の推進

毎月1回（年13回）、キャリア支援委員会を開催して、各学科コースとキャリア支援センターの教職員が、一人ひとりの学生に対するキャリア支援のあり方について協議しています。また、日常的には就職支援システム「キャリアカルテ」を核とした「高短キャンパスネット」(Web)を活用して、教職員間の情報共有と意思疎通を図っています。



5 学生募集と高大交流事業

(1) 高大教育交流事業

今年度の交流事業の実施回数は下記のとおりです。

- ① 出張ガイダンス（協定校へ出向いて学校ガイダンスを行う） 49回（17校）
- ② 出前（模擬）授業（協定校へ出向いて出前授業を行なう） 14回（5校・14講座）
- ③ 特別授業・授業見学・施設見学など（本学の授業に出席、本学の施設・設備見学）
3回（2校・7講座）



(2) 高大教育交流連絡協議会

令和4年2月24日（木）に、令和3年度高大教育交流連絡協議会をオンラインにて開催しました。三重県内の「高大教育交流協定校」等18校及び三重県教育委員会事務局高校教育課キャリア教育班、本学教職員が参加しました。本学から入試結果や就職状況などの報告を行い、その後、寶來准教授による講演を行いました。

(3) 授業見学会「先取りCampus Day」

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

(4) オープンキャンパス実施結果

① 日時

- | | | |
|-----|--------------|--------------------------|
| 第1回 | 6月12日（土） | 13:00～16:00 |
| 第2回 | 7月11日（日） | 13:00～16:00 |
| 第3回 | 8月8日（日） | 13:00～15:00（総合型選抜対策セミナー） |
| 第4回 | 8月21日（土） | 13:00～15:00 |
| 第5回 | 10月30日（土） | 14:00～15:00（キャリア育成学科のみ） |
| 第6回 | 12月19日（日） | 13:00～15:00 |
| 第7回 | 令和4年3月13日（日） | 13:00～15:30 |

留学生オープンキャンパス

8月4日（水）10:00～12:00

② 参加者数

	6/12 (土)	7/11 (日)	8/4 (水)	8/8 (日)	8/21 (土)	10/30 (土)	12/19 (日)	3/13 (日)	合計
子ども学科	88	123	－	85	61	－	65	55	477
キャリア育成学科 オフィスワークコース	24	33	－	20	26	6	11	12	132
キャリア育成学科 介護福祉コース	4	15	14	6	6	2	10	7	64
合計	116	171	14	111	93	8	86	74	673

③ 実施スケジュール

13:00～13:30 全体説明会

13:30～終了まで 学科・コース説明会、体験授業、各種相談



6 外国人留学生支援について

都度、留学生支援室会議を行い、留学生のビザ更新に関する情報、奨学金など金銭面支援の状況、納税及び社会保険料などの支払いに関する情報、日本語能力検定試験など学習状況について、情報の共有化を図っています。

(1) 外国人留学生支援室による在留期間更新の取次申請手続き

今年度は入管から介護福祉施設の奨学金契約について厳しく制限されました。留学生と個別面談を幾度も重ねて聞き取りした追加資料の提出のみならず、介護福祉施設の規程の一部改善などの調整・依頼を実施しました。

結果、9月末までに34人、11施設の対応を行い、在留資格更新不許可者を出さずに無事に手続きが行えました。

(2) 留学生ミーティングの実施

留学生と留学生支援室とのミーティング、ガイダンスを次の日程で実施しました。

4月21日(水)、4月27日(火)、4月28日(水) 7月26日(月)、8月3日(火)

(3) 留学生バスツアー

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。次年度に向けて新入生のコミュニケーションのための留学生バスツアーを改め、施設奨学金選びの一助となるよう実施時期を4月に繰り上げての各施設周辺の地域見学会を計画しました。

(4) 授業内での日本語支援

介護福祉コースの授業に2人の日本語補助員を配置し、介護や医療の専門用語等の説明が留学生に非常に好評です。

(対象授業科目)

「人生と仏教Ⅰ・Ⅱ」「心と身体Ⅰ・Ⅱ」「人間発達の理解Ⅰ・Ⅱ」

「社会保障」「地域福祉」「介護実習総合演習Ⅱ」「医療的ケアⅠ」

(日本語補助員)・・・伊藤由香、前田恵里



(5) 日本語教育科目のクラス分け制度の実施

より効果的な日本語学修効果を図ることを目的として、日本語教育科目のクラス分けを実施しました。日本語会話Ⅰ・Ⅱ 日本語表現・日本語作文Ⅰの授業を日本語能力により、Aクラス、Bクラスに分けています。

(6) 特別講座の開講

日本語能力試験(JLPT)の対策に特別授業を2講座(30回)開講しました。

介護福祉士国家試験の対策に特別授業を4講座(60回)開講しました。

(7) 留学生のための自転車安全講習会の実施

日本の交通ルールを再確認することで自転車による交通事故を未然に防ぐことを目的として、新たに自転車安全講習会を開催しました。

日時…4月23日(金)80分 参加者…23人

(8) 食料品の無料配布

新型コロナウイルスの感染拡大でアルバイトが減っている留学生に対して、青果市場で少し古くなったものや教職員の家庭内菜園による米や野菜の無料配布を行った他、新型コロナウイルス陽性者には数日分の食料を届けました。

(9) 施設奨学金の募集要項の改定

施設による奨学金の募集要項を改定しました。これにより施設の条件が詳細に分かるようになり、留学生の施設選びが更に明確にできるようになりました。

地域連携施設

高田短期大学公開講座

「日本語とはどのような言葉か？」

開催日 7月31日（土）

場 所 講堂

参加者 31名

受講料 無料

講師 キャリア育成学科 教授 野呂 健一

内 容 日本人なら誰でも当たり前のように使っている日本語について3つの観点から豊富な実例を挙げて解説しました。皆様には日本語の不思議さや面白さを味わっていただきました。



みえアカデミックセミナー2021

三重県内にある全ての大学・短期大学・高等専門学校が有する学びと県民をつなぐ三重県の高
等教育機関の連携事業で、各校の特色を活かしたバラエティ豊かな公開セミナーが毎年開催され
ております。

本学は次の講座を開講し、57名の受講がありました。

日 時 8月22日（日）13:30～15:00

会 場 三重県総合文化会館1F レセプションルーム

テ ー マ 「災害は忘れたころにやってくる どうする、その時」

講 師 キャリア育成学科 特任准教授 福田 洋子



教員免許状更新講習

昨年度に続き文部科学省の認可を受け、主に幼稚園教諭のための免許状更新講習5講座（計30
時間）のうち必修領域2講座を8月に実施しました。受講人数については新型コロナウイルスの影響
もあり、定員80名のところ57名にとどまりました。

仏教教育研究センター

研究会の開催

研究テーマ：「真慧上人著『顕正流義鈔』の研究」

高田派中興の祖である真慧上人のご遠忌を記念して、上人が著された『顕正流義鈔』の研究書を
発刊することを目的に毎月1回研究会を開催しています。これまでに原文と現代語訳との対照を行
い、語句説明を頭註、補註形態で行ってきました。そして昨年度に引き続き、令和3年度も補註と
解題の完成に向けて作業を進めました。

仏教教育研究センター公開講座（高田本山教学部 共催）

地域の方々に仏教に触れる機会の提供を目的に、高田本山教学部との共催にて、真宗高田派本山
の高田会館ホールにて開講しました。なお、いずれも受講料は無料です。

第1回	日 時	6月15日(火) 13:30~15:30	受講者	27名
	題 目	ストレスと仏教		
	講 師	清水谷 正尊 研究員 (仏教教育研究センター研究員、本学非常勤講師)		
第2回	日 時	10月14日(木) 13:30~15:30	受講者	28名
	題 目	三願転入の味わい		
	講 師	松山 智道 研究員 (仏教教育研究センター研究員、本学特任講師)		

仏教基礎講座（高田本山寄附講座）

高田本山からの寄附を基に実施する講座で、仏教や真宗に関する基礎的な内容に加え、真宗高田派の歴史や法宝物に関する知識を学んでいただく予定でしたが、令和3年度はコロナ感染拡大防止のため中止になりました。

仏教専門講座（高田本山寄附講座）

仏教基礎講座と同じく高田本山からの寄附を基に実施するもので、仏教や真宗に関するより専門的な知識を学んでいただくために、以下の日程で年間10回の講座（試験日として11回目あり）を予定していましたが、令和3年度はコロナ感染拡大防止のため、試験日を含めて5回中止になりました。

なお、この専門講座における講座科目は隔年で内容が変わり、全10科目（隔年で5科目）を開講します。この講座は、文部科学省の履修証明制度に則った「履修証明プログラム」として開講し、全10科目の講座を修了された方には学校教育法第105条に基づいた履修証明書を交付します。

日 程	5月28日(金)	6月25日(金)	7月30日(金)	10月29日(金)
	11月26日(金)	12月17日(金)		
	【 以下中止 】			
	4月23日(金)	9月24日(金)	1月28日(金)	2月25日(金)
	3月 4日(金)			
対 象	寺族および一般（真宗高田派の教学を学びたい方）			
受講料	無料（但し、テキスト代は実費負担）			
教 科 講 師	「仏教学講読Ⅱ」 清水谷 正尊 研究員（本学非常勤講師） 「真宗学概説」 栗原 廣海 研究員（本学前学長） 「真宗学講読Ⅱ」 金信 昌樹 研究員（善昌寺住職） 「真宗学講読Ⅳ」 北島 恒陽 研究員（正泉寺住職） 「真宗史購読」 栗原 直子 研究員（誓元寺衆徒）			

運営委員会開催の状況

第1回 4月 6日(火)、第2回 4月13日(火)、第3回 5月 6日(木)
第4回 6月 8日(火)、第5回 8月 6日(金)、第6回 9月13日(月)
第7回11月22日(月)、第8回 1月18日(火)、第9回 2月10日(木)

【 内 容 】 専門講座について、基礎講座について、令和4年度センター年間行事予定について、令和4年度公開講座講師について、センター研究会「研究書」の発行について、令和4年度の講座について

仏教行事委員会

学内仏教行事の実施（宗祖降誕会・灌仏会・報恩講が地域公開行事）

	新入生本山参詣	宗祖降誕会	灌仏会
開催日	4月2日（金）	5月24日（月）	6月21日（月）
講師	梅林 久高 （本学学長）	清水谷 正尊 （本学非常勤講師）	松山 智道 （本学仏教教育研究センター長・ 本学特任講師）
参加者	283名	1・2年ともに遠隔放送 390名視聴	2年生が遠隔放送 337名（2年の視聴も含む）

	追弔会	報恩講
開催日	10月18日（月）	12月20日（月）
講師	藤山 真宣（本学職員）	梅林 久高（学長）
参加者	2年生が遠隔放送 285名（2年の視聴含む）	2年生が遠隔放送 199名（2年の視聴含む）

育児文化研究センター

1. 地域子育て支援事業

1. 地域開放事業「おやこひろば たかたん」

子育て家庭の支援と子育て支援に関する研究フィールドの「おやこひろば たかたん」は、津市を中心に子育て親子の皆さんにご利用いただいています。スタッフの見守りの中、親子が、子ども同士が、親同士がゆったりした雰囲気遊び、ふれあい、交流を深める場として開催しています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止という点から1月・2月を閉鎖しました。また新たな試みとし、戸外での「森のひろば」や学外での「出張ひろば」を開催しました。「森のひろば」では自然の風や音、日々の変化など五感で感じながらゆったりと楽しむ姿があります。「出張ひろば」では本学には距離的に通にくい地域から来てもらっています。

（1）「おやこひろば たかたん」活動状況と利用者数

開催日時 基本として月曜日 10:00～12:00

場 所 育児文化室「たかたんフォレスト」・新町会館

参加対象 未就園児とその保護者

令和3年度は、42回ひろばを開設し、子どもと保護者を合わせて延べ577名の利用。

（2）子育て講座 ひろば開催日（月1回）にセンター研究員を講師に子育て講座を開催しました。

講座日	テーマ	講師	参加者数
6月14日（月）	親子で新聞ビリビリ楽しいな	古川 久美子	9組
7月12日（月）	リズムに合わせて♪親子でわくわく！	堀内 由香里	10組
8月19日（木）	仏教童話を味わう	松山 智道	2組
9月16日（木）	知って安心！「つまるとあぶないたべもののはなし」	長倉 里加	中止
10月11日（月）	親子で楽しもう！ふれあい遊び	小菅 千恵子	7組
11月15日（月）	子どもとたのしむ	河内 純子	9組
12月13日（月）	みんなで遊ぼう	金森 まさ子	9組
令和4年1月17日（月）	親子で楽しむリズム遊びと手品	稲田 直子	中止
令和4年2月17日（木）	子育てが楽しくなる絵本の力	岩附 啓子	中止

(3) ひろば関係研修会

○第1回ひろば関係者研修会 「乳幼児の救急蘇生について」

日 時 8月20日(金) 13:00～ 中止

○第2回ひろば関係者研修会 「おやこひろば たかたんの取り組みについて」

日 時 令和4年1月20日(木) 13:00～

場 所 1号館第4会議室

参加者 本学教職員・ひろばスタッフ 計8名

(4) 「おやこひろば たかたん」HP

「ひろば開催日」「活動案内」「活動紹介」等、現在の活動や今後のご案内をしています。

「活動紹介」はブログ形式で写真とともに、ひろば開催日毎にアップをしています。また、プリントアウトして育児文化室前にも掲示しています。

2. 子育て相談

地域への子育て支援の事業として、育児に関する心配や不安を相談できる個別対応の子育て相談を予約制で行っています。6月～3月までに1件の相談利用がありました。

II. 研究会

センター研究員の活動の場として定例研究会とグループ研究会を開催しています。

1. 定例研究会 (年3回)

第1回 第59回定例研究会 7月 6日(火) 16:30～(第4会議室) 参加者17名

研究報告 松山 智道 研究員 「仏教保育の授業を担当して」

第2回 第60回定例研究会 10月28日(木) 16:30～(図書館) 参加者19名

研究報告 武藤 敦士 研究員 「自然体験保育とビオトープ」

第3回 第61回定例研究会 令和4年2月7日(月) 16:30～ 中止

研究報告 大西 眞純 研究員 「スリランカ保育について」

2. グループ研究会

グループ研究①「子育て支援のひろばについて」(4名) 開催回数: 8回

グループ研究②「おやこひろばたかたんにおける学生の学びについて」(3名) 開催回数: 5回

グループ研究③「野外体験保育とこれからの保育者養成」(7名) 開催回数: 4回

グループ研究④「子どもの基本的な生活習慣と育児」(6名) 開催回数: 6回

グループ研究⑤「子どもと絵本」(3名) 開催回数: 5回

III. 学生支援事業

1. 地域保育関連の学生ボランティア活動支援「子育て応援隊活動」

外部から学生へボランティア募集があれば、学内コロナウイルス対策委員会に対して「行事实施計画書(感染症対策関連)」を提出し、許可が出たものについて、学生に募集を行いました。

2. おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

保育や子育て支援を学ぶ目的のサークル「たんたんクラブ」は発足4年目となりました。新型コロナウイルス感染症の影響で、学生がひろばへ参加できない中、10月にはひろば用の出席シール帳原稿作りに携わりました。また、3月には2年生が「手作りおもちゃ」「ゲームコーナー」「手作りプレゼント」の活動を行いました。

IV. 広報物及び研究成果の発行

1. センターたより「いくぶん」第26号

8月末に発行しました。



2. 育児文化研究センター紀要「高田短期大学育児文化研究」第17号（令和4年3月発行）

執筆希望書を編集委員会で協議し執筆者を決定しました。研究論文5編、調査報告2編、実践報告3編、文献紹介2編と定例研究会での研究報告要旨、5つのグループ研究会の活動報告等を掲載し令和4年3月15日（火）に発行しました。

高田短期大学 育児文化研究第17号（令和4年3月発行）

種別	テ - マ	執筆者
研究論文	SDGsに焦点を当てた木育の取り組み－「子どもの椅子づくり」ワークショップの実践－	林韓燮
研究論文	保育者養成課程における自然体験実習の意味について（1） —— 子どもの遊びと自然環境の変動からみた保育の課題・覚書き ——	河崎道夫
研究論文	乳幼児の基本的な生活習慣の歴史からみる獲得	鷺見裕子、宮崎つた子、川瀬浩子
研究論文	妊婦を対象とした子育て支援の現状を探る	長倉里加、青木信子、井澤淑子、小管千恵子
研究論文	コロナ禍における子育て支援に関する研究	藤重育子 鷺見裕子
調査報告	地域における孫育ての取り組み —地域子育て支援拠点の構築に向けて—	榎原耐津子、杉山佳菜子、小川真由子
調査報告	保育者におけるデジタル絵本の認識に関する調査研究	藤重育子
実践報告	自然体験保育を指向したゼミナール活動の現状と今後の展望 ～高田短期大学における自然体験保育実践教育の導入～	福西朋子、林 韓燮、長倉里加、武藤敦士
実践報告	自然保育と保育者養成 ～大学の自然を保育者養成教育に活かすための取り組み～	福西朋子
実践報告	自然体験保育のためのピオトープ整備の現状と課題 ～高田短期大学における実践から～	武藤敦士
文献紹介	時代の変化にともなう育児や保育に関する研究	前畑みち代 藤重育子
文献紹介	乳児と養育者との音楽的相互作用に関する海外の研究動向の紹介 －L. K. Cirelliほか著 「乳児の社会的シグナルとしてのリズムとメロディ」（2018）－	山本敦子

3. 子育て情報発信

「情報誌きらきら」（隔月発行：年6回）の育文センター担当頁「子育てライフ応援隊！一緒に子育てをはじめましょ」への子育て情報を掲載。

掲載 Vol	掲載号 2年	発行 予定日	広場・相談 掲載日程	テーマ（担当）	
				子育てアドバイス	おやこひろばより（ひろばスタッフ）
56	5・6月	5/21(金)	6・7月	自然体験と科学の心（青木）	心と体を大切に
57	7・8月	7/ 9(金)	8・9月	上手に“甘える”ことの大切さ（山口）	夏を元気に食べよう！
58	9・10月	9/25(土)	10・11月	あんなに…（福西）	スポーツの秋を楽しもう！
59	11・12月	11/26(金)	12・1月	子どもの絵はどうやって見る？（亀澤）	季節を感じよう！お散歩遊び！
60	1・2月	1/25(火)	2・3月	子どもってかわいくって、おもしろい！（榎原）	豆まきをしよう
61	3・4月	3/25(金)	4・5月	出会いの春、笑顔の表現は体全体で！！（権部）	寝る子は育つ！心地よい「子守歌」

V. 地域連携事業

1. みえ次世代育成応援ネットワーク

みえ次世代育成応援ネットワークに運営委員として参画し、県行政と地元企業や地域子育て団体と連携し、子育て支援活動事業に取り組みました。

「みえの子ども応援プロジェクト」ありがたいの一行詩コンクールでは応募した学生の中から1名が入選しました。

2. みえこどもの城連携協定による事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止の可能性もあったが、参加人数の制限や開催日数を増やすなど対策を講じ、連携協定事業「みんな集まれ！たかたん あそびひろば」を実施しました。大学からは11グループ(学生・教員137名)が参加し、特に1年生ゼミからの積極的な参加が目立ちました。

3. 地域啓発事業 主催講演会

子ども学科との共催で、自然保育をテーマにワークショップ形式で下記の内容で行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症のため今年度は中止となりました。(※次年度開催予定)

VI. 津市委託事業

1. ホットひろば事業 講師：橋本 景子(高田短期大学 非常勤講師)

乳幼児を子育て中の親を対象として、ほんのひととき子どもから離れてホットできる時間に、子育て中の親同志が交流できる場を4回計画しました。しかし、2回は新型コロナ感染症拡大のため、小学生保護者対象のひろばは参加希望者がなかったため中止とし、結局1回の実施となりました。

開催日時：11月20日(土) 10:00~12:00 場 所：高田短期大学

参加者：6名 託児12名 託児学生6名

キャリア研究センター

1. 地域連携事業

(1)「津市」「一身田商工振興会」連携・協力事業

「一身田寺内町活性化への提案」報告会を開催

キャリア研究センターでは津市、一身田商工振興会と連携して、一身田寺内町の活性化に取り組んでいます。その一環として、キャリア育成学科オフィスワークコース中畑ゼミの学生が「一身田寺内町活性化への提案」をとりまとめ、一身田商工振興会、津市、一身田寺内町の館、一身田寺内町ほっとガイド会の方々を招き、7月5日(月)に報告会を開催しました。寺内町マップの作成や電子クーポンの利用、それらと連携させたウォークラリーなどのイベント開催、一身田寺内町のゆるキャラ「しんぼうくん」のグッズ開発、ホームページ・インスタグラムの改善などを提案しました。

「一身田商工振興会Instagram」による情報発信

令和2年度より、一身田商工振興会のInstagramへの高田短大生による記事・写真の投稿を、ボランティア学生を募り行っています。地域の団体や有力店などからのフォローの他、一般の方々からのフォローも徐々に増加しています。お七夜の際には何本もの記事を上げ、一身田寺内町のPRを行いました。

「(仮称) 一身田寺内町ウォークラリーコース」の提案

先に挙げた「一身田寺内町活性化への提案」の中から、一身田寺内町を若い方も含め様々な方に歩いて知ってもらいたい、商店街も知ってもらいたいので「ウォークラリーコースを考えて欲しい」という一身田商工振興会からの要望がありました。このため、キャリア育成学科オフィスワークコースの中畑ゼミの学生を中心に、令和3年度後期から4年度前期にかけて一身田寺内町のことを調べたり現地を歩いたりして、ウォークラリーコースの作成・提案を行うべく準備を進めています。

「I S E 芋でつながろう2021」プロジェクト

オフィスワークコース川喜田ゼミで、高田会館あかり屋、和菓子店「春乃舎」と「I S E 芋でつながろう2021」プロジェクトを立ち上げ、伊勢芋の皮を使った和菓子の商品開発活動を行っています。

12月には学生の要望を元に製作された試作品が春乃舎さまより提示され、ネーミング、パッケージデザインもほぼ決定しました。

令和4年5月21日(土)、22日(日)に高田会館で開催予定の物産展にてお披露目、発売となる予定です。



(2) 三重県信用保証協会との連携事業

三重県信用保証協会と高田短期大学は地域への貢献、産業人材の育成、産業振興、創業・起業支援に寄与することを目的に連携協定を結んでいます。

産業人材の育成、創業・起業支援の活動の一環として、オフィスワークコース2年生のビジネス実務論の講義の中でお話を頂いています。今回は三重県信用保証協会の企画調整課浦田主査にお越しいただき、「企業経営とお金の関わりについて」と題して、7月9日(金)にお話をいただきました。

(3) 百五銀行・百五総合研究所との連携事業

就業支援セミナー「業務効率が驚くほど上がるPowerPoint

勝負をかけるプレゼン資料作成講座」の開催

百五銀行・百五総合研究所との連携事業として、就業支援セミナー「業務効率が驚くほど上がるPowerPoint 勝負をかけるプレゼン資料作成講座」を8月6日(金)に開催し、企業の方、一般の方20名に参加いただきました。講師は本学研究員の川喜田多佳子と寺家尚美が務め、キャリア育成学科オフィスワークコースの学生4名がサポートを行いました。

「相互理解から始めよう！企業と高短生によるパネルディスカッションー就活・採用のミスマッチを防ぐためにー」を開催

百五銀行・百五総合研究所との連携事業として、地域企業の人事担当者の方を招き、本学オフィスワークコース学生代表とのパネルディスカッションを11月15日(月)に開催し、就職講座の一講座として、オフィスワークコース1年生全員が参加しました。

企業（社会）や就職活動に対する不安から就職活動に取り組む一歩がなかなか踏み出せない学生があることから、企業の人事担当者から就職・採用活動や就職後の育成・定着について伺うとともに、それぞれが感じている思いや課題などにつき話し合い、相互理解を深めることでミスマッチを防ぎ、学生が就職活動（社会）への第一歩が踏み出せるよう、昨年度より開催しています。

最初に企業側3社（ICDAホールディングス、ミエデンシステムソリューション、百五銀行の人事・採用担当者）より自社の概要・業界の特徴、仕事の内容、採用後の人材育成や職場環境、求める人材などについてプレゼンテーションをいただき、その後学生パネリストよりの質問とそれへの回答、企業側から学生への質問と回答、フリートークと進めました。



（4）津市中央公民館との共催事業

シニアパソコン教室「Zoom入門講座」を開催

6月26日（土）に、シニアパソコン教室「Zoom入門」を開催しました。この講座は津市中央公民館と本学との共催事業で、ボランティア団体「情報ボランティアみえ」とキャリア育成学科オフィスワークコースの学生（鷲尾ゼミ2年生）が講師、スタッフとして支援しました。

（5）就業支援セミナーの開催

「クレーム対応基礎講座」を令和4年3月15日（火）に、長谷川聡子 研究員が講師を務め開催しました。当初8月17日（火）に予定していたもので、コロナ感染拡大のため延期しておりましたが、状況を十分検討の上コロナ対策を取って3月に実施しました。

講義の主な内容は、ピンチをチャンスに変えるクレーム対応、初期対応のポイント、クレームの事後活用と再発防止の考え方などです。

2. 委託事業

（1）高等教育機関と連携したダイバーシティに関する講座等企画・運営について

本学も参加する高等教育コンソーシアムみえが「令和3年度高等教育機関と連携したダイバーシティに関する講座等企画・運営業務委託」を受託し、高等教育機関においてダイバーシティに関する授業や公開講座を行うとともにダイバーシティ推進の考え方を県内に広める活動を行うこととなりました。

この活動の一環として本学での講座開催依頼があり、1年生のキャリアデザインⅡ第11講「環境変化の中でのキャリア選択」

（12月16日（木））、2年生のマーケティング論第14講「これからのマーケティング」（1月14日（金））の中で、ダイバーシティの重要性と効果、SDGsの意識の高まりと影響などについて取り上げました。



介護福祉研究センター

1. 研究活動

1. 定例研究会

介護福祉研究センターでは、地域の福祉施設等の関係者や介護福祉関係で活動されている方々や卒業生を研究員に招き、令和3年9月現在52名（内卒業生22名）の研究員が在籍しています。毎月一回の定例研究会を開催して情報交換を行い、地域還元できるよう学びがあります。

場所は、原則介護福祉研究センターまたは介護実習室で行っています。

1) 第44回定例研究会 5月28日(金) 18:00~19:30 参加者 10名

- ・テーマ「施設はどこまで住まいになりうるか」
- ・発表者：世古口 正臣 研究員
- ・内容：高齢者の入居施設はどうあるべきか、在宅とそん色のない施設生活はどうあるべきかについてお話いただきました。世古口研究員が施設長を務める美里ヒルズは平成17年の開設以来、ユニットケアと向き合い、理想のケアを模索してきました。その取り組みから見えてきたケアのあり方について、従来型の施設と比較しながらご説明いただきました。



2) 第45回定例研究会 7月16日(金) 17:00~19:00 参加者 10名

- ・テーマ「『ケア (care) 』の意味についての検討」
- ・発表者：千草 篤磨 研究員
- ・内容：前介護福祉研究センター長で、現在は特別養護老人ホーム報徳園施設長の千草篤磨研究員から、上記のテーマで、現在取り組んでいる研究内容についてお話いただきました。近年、福祉分野でカタカナ言葉が濫用されるなかで、「ケア (care)」という言葉が何を意味し、どのような目的で使用されてきたのか、福祉分野での利用実態や先行研究の調査からご説明いただきました。



3) 第46回定例研究会 10月13日(水) 17:00~18:30 参加者 10名

- ・テーマ「文書情報演習Ⅰ 介護福祉コース授業実践報告」
- ・発表者：川喜田 多佳子 研究員、寺家 尚美 研究員
- ・内容：文書情報演習の授業においてMicrosoft社が開発・販売している文章作成ソフトWordを正しく使うための基本操作を、どのような学びの目的と方法を設定して実践しているか、介護福祉コースをモデルに報告していただきました。

4) 第47回定例研究会 11月10日(水) 17:00~18:30 参加者 8名

- ・テーマ「自然体験保育の効果と高田短期大学の取り組み」
- ・発表者：武藤 敦士 研究員
- ・内容：武藤研究員から本学周辺の里山を学生の学びに活用していくための様々な取り組みと、ビオトープの整備を通して学生の主体的な学びと自発的な活動の促進、将来的に子どもたちの参加にもつなげていくための今後の課題や展望等、非常に興味深いお話を報告いただきました。

5) 第48回定例研究会 令和4年1月26日(水) 予定 → 次年度に延期

- ・発表者：山下 千晶 研究員

6) 第49回定例研究会 令和4年2月16日(水) 予定 → 次年度に延期

- ・発表者：北川 なみ 氏 (卒業生：聖マッテヤ心豊苑勤務) ほか

II. 実施事業

1. 介護福祉セミナー

1) 第1回介護福祉セミナー

6月26日(土) 13:30～15:30

参加者：19名(一般、介護福祉施設職員、研究員等)

テーマ：「牛乳パックを使った服薬用手作り自助具」

講師：永田 穰氏(一般社団法人三重県作業療法士会監事)



2) 第2回介護福祉セミナー

12月19日(日) 13:30～15:30

参加者：17名(一般、介護福祉施設職員、研究員等)

テーマ：「カラーセラピー～生活の『いろいろ』を見る」

講師：服部 優子 研究員

2. 白子公民館の高齢者と学生の交流サロン事業

今年度も、例年通り白子公民館と連携して事業を実施する計画をしておりましたが、新型コロナウイルス感染防止対策のため今年度の活動は断念しました。

3. 高校生等を対象とした介護啓発事業

1) 介護見学バスツアー 8月10日(火) 10:00～13:00

見学先：特別養護老人ホーム報徳園

参加者：高校生3名、保護者1名、日本語学校留学生8名、学生ボランティア5名、
中川 千代 研究員、長谷川 恭子 研究員、川喜田 多佳子 研究員、
寺家 尚美 研究員

内容：施設概要紹介、施設利用者との交流、食形態の異なるメニュー試食体験

III. 介護のみらいを考えようーあなたの思いやりを言葉にしてみようー作文コンクール

高田短期大学と本センターの主催事業である、「第1回(令和2年度)介護のみらいを考えようーあなたの思いやりを言葉にしてみようー」作文コンクール文集を今年度に入り作成し、県内各小中学校に配布しました。文集は、県内介護福祉施設等、各関係機関へも配布し広報しています。

同時に、第2回(令和3年度)作文コンクールの募集を県内小中学生向けに行い、638作品の応募がありました。

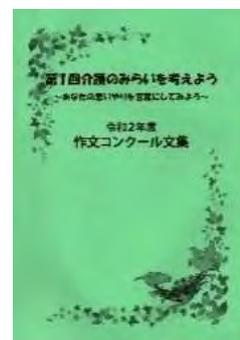
募集期間：7月20日(火)～9月17日(金)

対象者：三重県内の小学校に通う5・6年生および中学生

表彰式：10月30日(土) 13:30～14:30

※最優秀賞と優秀賞は、介護福祉研究センター紀要「高田短期大学介護・福祉研究」第8号に掲載予定です。

また、第2回作文コンクール文集も3月発行で作成しました。



第2回介護作文コンクール表彰式

10月30日(土) 13:30より表彰式を来賓出席の下、本学講堂にて実施し、優秀作品の朗読(4作品)も行いました。その様子は新聞(三重タイムズ)に掲載されました。



V. 研究成果の発行

1. 介護福祉研究センター紀要「高田短期大学介護・福祉研究」第8号（令和4年3月発行）

執筆希望書を編集委員会で協議し執筆者を決定しました。研究論文2編、調査報告1編、研究ノート2編、資料・文献1編に原稿依頼しました。

高田短期大学介護・福祉研究第8号執筆依頼一覧

*掲載順は各種別順

種別	テ ー マ	執筆者	頁
研究論文	母子生活支援施設を例に考える社会福祉実習指導における「生活問題の把握」の重要性	武藤 敦士	12
研究論文	「価値交流学习」から見えてきた「対話」的な学び～多様な価値観への気づきの醸成～	中川 千代	11
調査報告	高齢者施設を対象としたレクリエーション実態調査	長谷川 恭子	8
研究ノート	介護現場と養成施設における実習指導と相互ニーズについての意識 調査に関する一考察	服部 優子	10
研究ノート	匿名を求めさせる社会 - 知る権利と、知られない権利の間での、障害者の権利 -	山本 啓介	12
資料・文献	短歌に見る脳性麻痺者の生き方-無名歌人・藤本正則の作品紹介-	植村 哲也、 千草 篤麿	10

その他のボランティア活動

本学の教育理念である「やわらか心」の実践の場として、全学生にボランティア体験活動プログラムを組み実践させることへの取り組みをしています。本年は昨年度に続き、新型コロナウイルスの影響を受け、感染防止対策面から、従来の活動を大幅に見直したため、オフィスワークコースのボランティア実践履修生、ボランティア、国際交流部員の応募者に限った限られた中での活動となりましたが、三重県教育委員会が推進する「高等教育機関の専門的な知識や技能を生かす教育プログラム」、特に、鈴鹿市立白子公民館、鈴鹿市一ノ宮児童センターでの事業には積極的に取り組むことができました。また、県立白山高校との交流協働事業、名松線をテーマとしたポスター制作・地域活性化に向けた取り組みをスタートさせました。全国的にも注目されるユニークな活動である三重県警察本部との協働プログラム、サイバー犯罪被害防止活動に力を入れて取り組んでいます。



参加延べ人数/計140名（こども学科：63名 オフィスコース：77名）

学内施設設備の整備事業の実績

事務局内 複合機 2台

施行業者 : 富士フィルムビジネスイノベーション (株)
施行費用 : 904,200円、1,086,000円
施工時期 : 令和3年6月



音楽室Ⅰ グランドピアノ

施行業者 : (有) 荒川楽器
施行費用 : 616,000円
施工時期 : 令和3年7月

音楽棟屋上防水改修工事

施行業者 : 日本土建 (株)
施行費用 : 3,245,000円
施工時期 : 令和3年9月～10月

プロジェクト設置工事

納入業者 : 富士フィルムビジネスイノベーション(株)
納入費用 : 2,929,850円
納入日 : 令和4年3月



【命の大切さを考える教育の推進】

本校の建学精神である「仏教の教え、親鸞聖人の教えに基づく宗教的情操教育」に基づき仏教教育による人間味の豊かさを求め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨に努め、広い視野から社会貢献できる人間の養成を目指した教育を実践しています。

月1回の本山参詣や週1時間の一般仏教の授業及び校外宿泊学習での平和学習等において自他共にかけがえのない「命」を尊重し、人間は一人で生きられない存在であり、他者と共感共有し支え合って生きる重要さに気づけるよう努めています。特にいじめの未然防止といじめを許さない、いじめをさせないことなどを視野に入れて、行事や授業に反映させています。いじめ・体罰・ハラスメントについては、学期毎にアンケート調査を実施しています。

また、本山参詣で仏教講話を聴聞することを通して、聞くことの大切さ、その受容により共感する大切さを身につけることにつながると考えています。これらの体験活動を基盤として人権学習とも連携しあい、社会でのマナー、コミュニケーション能力を向上させ、自然との共生に関心を持って身近な日常生活の中で思いやりと慈しみのある生き方を涵養しています。



【人権教育研修の推進】

本校は、宗祖親鸞聖人の教えを建学の精神として、宗教的情操を養い、互いの人格・人権を尊重できる人物の育成に努めています。生徒たちには「うわさや偏見に流されず真実を確かめ、自分自身の考えを持つ」「差別に立ち向かい行動する力をつける」「他者の異なった価値観を尊重しながら仲間同士のつながりを強める」ということを具体的な目標として人権教育を実施しています。

生徒に対する人権教育については、各クラスでのLHRなどを通じて、身近な人権課題を考える機会をつくり、日ごろから人権を意識するように努めています。そして、学年ごとに人権テーマを設定して、学年人権LHRを実施します。文化祭での人権展示について、高III・6年、高I・4年、中I・2年はテーマに従った人権メッセージを全員が作成して、フレンドシップで検討し文化祭で展示発表しました。今年度のテーマは「『コロナ感染者に対して差別的な気持ちを持った』や『何気ない言葉だったが相手が実は嫌だと感じていた』など、相手を傷つけてしまい後悔したできごとを教えてください。」でした。また、高II・5年、中3年は校外宿泊学習の目的地の変更がありました。取り組んでいた平和学習の事前学習をまとめました。12月の二学期末考査後に、高校は学年別で、中学校は全体で、学年人権LHRとして人権講演会を実施しました。高III・6年は、「卒業するみなさんへ」と題して本江優子さん（反差別・人権研究所みえ）に講演して頂きました。高II・5年は、「部落差別を解決するために一部落問題は自分には関係ない？」と題して原田朋記さん（反差別・人権研究所みえ）に講演して頂きました。高I・4年は、「『障害』者の人権～自分の問題として考える～」と題して中森洋子さん（反差別・人権研究所みえ）に講演して頂きました。中学校は、「自分の立つ位置を考える～誰かのためではない自分のために～」と題して原田朋記さん（反差別・人権研究所みえ）に講演して頂きました。地域の人権活動として、白塚小学校で開催された一

身田中学校区子ども人権フォーラムと一身田中学校で開催された一身田中学校区人権フェスティバルに、中学校生徒会が参加しました。

教職員に対する人権研修につきましては、人権教育推進担当を中心に県教育委員会人権教育課や人権センター主催の研修会へ積極的に参加して、成果を職員会議などで還元しています。今年度は、6月～10月の毎週火曜日に三重県人権センターで開催されていた第25期三重県人権大学講座を、人権教育推進担当の前田望見教諭が受講しました。3月10日（木）から17日（木）を人権ウィークとして、全校的な人権について考える機会としました。その中で、3月10日（木）1限目に全クラスで人権に関する授業を実施しました。各授業担当の先生方から、独自の視点で人権に関する授業を行い、生徒が人権について学ぶだけでなく、教職員も人権について考える機会となりました。また、例年8月に実施している人権教育推進委員会対象のフィールドワークは、県教育委員会による「性の多様性を認め合い、誰もが安心して暮らせる三重県づくり条例」の施行に伴い「学校における人権に配慮した対応や人権教育の取組について」をテーマとして、性の多様性に関するこれからの学校の取り組みについて学ぶ全教職員の研修会として、3月の人権ウィークの一環として実施しました。

人権感覚を磨くことは今の自分を見つめ直すことであり、他人任せにすることでは身に付きません。様々な課題を抱える厳しい現代社会の中でいかに生きるかを模索し、今後も地域や家庭と連携を取りながら人権教育を着実に進めていきたいと考えています。



【きめ細やかな学習指導の推進】

報道によればコロナ禍において休校期間中に実施したオンライン授業は、学生や生徒に对面授業が怖い、人の表情が気になって仕方がない、先生の生の声が遅すぎてイライラするなどといった思いがけない影響がでているケースがあるということです。今後も継続的に、ウイズコロナあるいはポストコロナにおける生徒の変化や多様化する生徒の状況、そして個々の生徒の学習進度や達成度に応じた綿密な指導を行うとともに生徒の学力及び特質に応じた教育活動を模索・検討していく必要があります。

綿密な計画に基づき通常授業を実施する以外に、SHRや放課後の小テスト、補講、夏期講習などの時間を設定し、通常の授業では導入しにくい反復学習や発展的学習の機会を多く取り入れました。また、考査後に個別懇談、一学期末には保護者を交えた三者懇談などを行い、生活指導も含めた学習指導や進路実現のためのサポートの充実を図りました。さらに、夏季休暇中においても、各学年で工夫したセミナー等を実施し、苦手な分野の克服やキャリア教育の充実に努めてきました。こういった地道な活動の成果はすぐに目に見えて現れるものではありませんが、生徒の内面的成長と自己実現に繋がるものであると信じ今後も努力を重ねていきたいと思っています。

不登校や精神的な悩みを抱える生徒に即応するため、教育支援委員会、生徒指導部、各学年、スクールソーシャルワーカー、養護教諭、カウンセラーが連携して保護者や生徒の心理的負担を少しでも軽減できるよう、一人ひとりに寄り添った心のケアに努めてきました。

新型コロナウイルス感染症対応として、休校期間中もオンラインで授業やホームルームを実施したり電話による生徒・保護者との会話の機会を増やすなど、生徒が安心して日常を過ごすことがで

き、また充実した学校生活が送れるようにきめ細かく生徒の実情を把握し、繰り返し学習や習熟度に応じた個別指導に取り組みました。今後もこういった地道な努力を弛まず行い、生徒の学習意欲と学力の向上に努める所存です。

【ICT教育とアクティブラーニング対策の推進】

休校期間中に行ったオンライン授業等以外にも、Classiを利用した健康観察や、MeetやZoomを利用したリモートによる講演、キャリア研修等、平常の教育活動におけるICT化が急速に進みました。

3年コースでは、基礎学力の定着を目指して、学習補助教材としてスタディサプリおよびスタディサプリイングリッシュを導入しました。

ClassiとGoogle Workspace for Educationは学校全体で活用し、コラボレーションの促進、指導の効率化、学習環境のセキュリティ確保の実現を目指しました。また、NTTのビジネスチャットであるeIganaは教員間のコミュニケーションツールとして有用でした。電子黒板を活用した授業では、日々教員間で利用に関する工夫と改善が行われ、図やグラフ、動画、資料、教科書などを補助教材として積極的に利用するとともに、板書は従来通り黒板にまとめるという形式が定着してきました。

GIGAスクール構想における「生徒1人に1台の端末」環境の構築に向けて、本年度は7月より中1年に対しiPadを導入しました。リモートによるグループ研究、校外活動などの場で有効に機能し、生徒の学習意欲の向上に繋がったと考えます。新年度は、新中1年・新高1年にも順次導入し、ICT環境のさらなる充実に努めたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症対応により、アクティブラーニングはまだ規制下にあります。3密を避け、フェイスシールドを利用するなどして可能な限り生徒の主体的な学びの伸長に努めました。



【キャリア教育の推進】

生徒が育つ社会環境の変化は生徒たちの心身の発達にも影響を与えています。加えて産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等は、生徒たち自らの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしています。こうした状況下で、変化を恐れず、社会に対応していく力を育てることが不可欠となってきています。生徒が未知の知識や体験に関心を持ち、仲間と協働して学ぶことを通して、未経験の体験に挑戦する勇気とその価値を得ることで、生涯にわたり学び続ける意欲を維持する基盤を作り出せるものと考えています。

社会体験等の校外活動は、他者の存在の意義を認識し、向社会性を高めたり、社会との関係を学んだりする機会となり、将来の社会人としての基盤づくりともなると考えられています。その基本に基づき、本校は、ほとんどの生徒が進学を希望している関係上、進路情報の豊富な企業や大学と連携し、自己研鑽の一助としています。

進路・職業観を考える学習会等

	鈴鹿医療科学大学連携講座	進路ガイダンス
対 象	高Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ年	高Ⅱ・Ⅲ年
内 容	薬学・看護・医療技術学部関係者による医療系学部の現状説明	大学・短大・専門学校の個別相談会
実施日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	12月7日（火）高Ⅱ年 380名参加
	皇學館大学連携講座	
対 象	高Ⅰ・Ⅱ年	
内 容	文学部・現代日本学部の教員による出張講義	
実施日	新型コロナウイルス感染症第6波により中止	

4年生キャリア研修

上述のキャリア教育の方針に基づく取り組みとして、例年、夏季休業中を利用し、4年生を対象に東京キャリア宿泊学習を実施しています。本年度で11年目となる体験型キャリア学習ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら今年度は従来のような東京でのキャリア学習を中止とし、高田高校でオンラインを利用して10月11日（月）・12日（火）・14日（木）の3日間で下記の4つのプログラムを実施しました。

- ① 『SDGs＋大学選び』 各大学のSDGsに向けたさまざまな取り組みを知ることで、学び主体の、より良い大学選びにつなげる。
- ② 『CASプログラム（キャリア開発）』 職業に対する意識を理解し、働く理由を考える。社会人とのコミュニケーションを通して、職業観・勤労観を学ぶ。
- ③ 『日経から学ぶ探究学習プログラム』 社会課題を自分ごととして考えることで、より深い学びにつなげる。
- ④ 『卒業生による講演』 NHK天津放送局 西河篤俊氏「メディアや海外で働くこと」

東京キャリア研修の代わりに行った取り組みでしたが、予想以上に内容が充実しており、「生徒の視野を広げる。進路意識を高める。」といった当初の目的を十分果たすことができました。

最初のプログラム「SDGs＋大学選び」では、同じSDGsの目的に対して各大学・各学部学科が様々な取り組みを行っていることを知ることで、あるテーマに対して多面的・多角的にアプローチできることを生徒に理解させることができました。

特に、生徒の反応が良かったのは「CASプログラムOnline」でした。スライドや動画によって「将来の働き方」について具体的にイメージすることができ、さらに多種多様な考えを知り、生徒は自分自身について段階的に分析・理解し、働く上での自分の軸が何かを見いだすことができました。

日経から学ぶ探究学習プログラムでは、新聞記事の背景を考えたり、新聞記事を「自分ごと」としてとらえたりすることで、生徒が社会との関わりに目を向けることができました。

すべてのプログラムの共通点は、『「自分を知ること。相手を知ること。社会を知ること。」が大切である。』ということでした。最終日の講演でも同じことを大切にすべきという話をしていただき、講演がキャリア研修の総括となりました。

この研修を経て、生徒の雰囲気・意識に変化が見られ、研修途中から、社会人の方に積極的に質問する生徒が増え、質疑応答の時間が不足するほど質問の数が多くなりました。また、何となく世

間的に良い大学を選択するのではなく、自分のやりたいことを多面的に見つめ直し、文理にとらわれず進路について考えるようになった生徒も増えました。主体的に取り組む生徒が多くなり、生徒の進路意識の高まりを実感しました。

文理選択を控えた4年生にとって、大変有意義な研修でした。



比叡山郊外宿泊学習

中2年が中学校伝統行事、比叡山校外宿泊学習に参加しました。例年中1年で行う行事ですが、コロナ禍の為、昨年度は中止。2泊3日から1泊2日に変更し、2班に分けて、本年実施しました。a・b組は7月26日(月)に、c・d・e組は27日(火)に出発しました。

行程は両班同じで、初日に横川(横川中堂・恵心堂・四季講堂)、西塔(浄土院・釈迦堂)を参拝しました。炎天下にもかかわらず、生徒達は諸堂での説明に熱心に耳を傾け、色々な知識やその背景などを吸収しました。二日目は、早朝6時に根本中堂を参拝、読経と講話を拝聴しました。厳粛な雰囲気の中、仏教の世界と向き合いました。その後、東塔(阿弥陀堂・大講堂・戒壇院)と急な山道を下った先にある無動寺谷(大乘院)を参拝し、講話を拝聴しました。

期間が短縮されただけでなく、感染症予防のため、食事の仕方や宿舍での生活の仕方にも制約が課せられましたが、従来 of 行程の主要なものは実施することができ、仏教と比叡山、そして親鸞聖人との関わりを学ぶことができました。又、入学後初めての宿泊学習でお互いの関係を深めることもでき、この経験が今後の成長へとつながっていくものと期待しています。



【大学等との連携事業】

学習・進学意欲の向上、各分野への興味・関心の深化を目的として、各学年・コースで、三重大学や鳥羽水族館等と連携事業を毎年実施しておりますが、残念ながら今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、鳥羽水族館との連携事業は中止、三重大学との連携事業はすべて本校で実施できる講座のみの実施となりましたが、三重大学の先生方の協力により、多くの機材をお借りすることができ、23講座を実施することができました。また、三重大学が主催する三重大学サマーセミナーもオンラインでの開催となりましたが、多くの生徒が積極的に参加しました。

三重大学との連携事業の詳細は以下のとおりです。

- ① 三重大学への依頼講座数：28講座（依頼講師16名）
- ② コロナウイルス感染防止のため三重大学の構内は立ち入り禁止となる。そのため5講座を中止し、高田高校内で23講座を実施。
- ③ 実施講座内容

【人文学部】

「社会の法則を探る」 人文学科 中川 正 教授

内容：日常生活に存在する「法則」を発見し、実生活に応用するという「法則探検」のワークショップを通して、社会科学的な思考法を学ぶ大学での学生主体型授業の一端を体験する。

日時・場所・参加生徒：

- | | | | |
|-----------|------|-------|---------------------|
| 7月30日（金） | 視聴覚室 | （参加者） | 29名（高11年22名・高13年7名） |
| 8月4日（水） | 大会議室 | （参加者） | 10名（高1年） |
| 10月15日（金） | 講堂 | （参加者） | 207名（高4年） |
| 12月23日（木） | 視聴覚室 | （参加者） | 40名（高5年） |



「史料から学ぶアメリカ社会」 人文学科 森脇 由美子 教授

内容：過去の英字新聞の記事を読み、当時の奴隷制度の実態を読み解き、奴隷制度について考える。

日時・場所・参加生徒：

- | | | | |
|-----------|---------|-------|-----------|
| 7月12日（月） | 講堂 | （参加者） | 207名（高4年） |
| 11月22日（月） | 5号館選択教室 | （参加者） | 24名（高5年） |



【教育学部】

「1つの文学作品を非くべ読みで精読する」

国語教育 和田 崇 准教授

内容：一つの文学作品を日本語と英語の両方から読み解き、精読する。

日時・場所・参加生徒：

- | | | | |
|---------|------|-------|----------|
| 8月3日（火） | 大会議室 | （参加者） | 12名（高1年） |
|---------|------|-------|----------|



【工学部】

「ロボット制御」 工学研究科 駒田 諭 教授 工学研究科 山村 直紀 准教授

内容：LEGO ロボットを組み立て、コースに沿って走るようにプログラミング実習を行い、ロボットの制御について学ぶ。さらに三重大学の研究室とWEBでつなぎ、研究中の各種ロボットのデモンストレーションを見学する。

日時・場所・参加生徒：

【講義のみ】

7月13日（火） 大会議室 （参加者） 207名（高4年）

11月12日（金） 物理室 （参加者） 34名（高5年）

【事前学習（講義及び実験）】

7月19日（月） 物理室 （参加者） 11名（高1年）

8月2日（月） 物理室 （参加者） 11名（高1年）



「磁石とその応用技術」 工学研究科 藤原 裕司 准教授

内容：磁石は、カード等に多く使われている。演示実験を体験しながら、身の回りにおける磁石の働きについて考える。

日時・場所・参加生徒：

11月16日（火） 物理室 （参加者） 26名（高5年）



「物理基礎実験」 工学研究科 藤原 裕司 准教授

内容：自分で作製した回路に磁石を使ったモーターを接続し、簡単な物理実験を行う。

日時・場所・参加生徒：

7月26日（月） 物理室 （参加者） 29名（高11年16名・高13年3名）



【生物資源学部】

「ウイルス感染の仕組み」 生物資源学研究科 稲垣 穰 教授

内容：インフルエンザウイルスやコロナウイルスを例に挙げ、ウイルスの特徴や仕組みを学んだ上で、治療薬や感染防止について考える。

日時・場所・参加生徒：

10月15日（金） 視聴覚室 参加者 207名（高4年）

11月22日（月） 視聴覚室 参加者 54名（高5年）



「光るタンパク質を調べよう」 生物資源学研究科 三宅 英雄 准教授

内容：ゲンジホタルからルシフェラーゼ遺伝子を単離して作製したルシフェラーゼの組換え酵素を様々な条件で反応させ、その時の様子を観察する。

日時・場所・参加生徒：

12月23日（水） 生物室 参加者 27名（高5年）



「PCRによるDNAの増幅」 生物資源学研究科 苅田 修一 教授

内容：ヒトの第一染色体にあるVNTRという領域をPCRという技術を使って増幅し、観察する実験。VNTRとは、犯罪捜査や親子鑑定、個人識別に使っている領域。

日時・場所・参加生徒：

8月19日（木） 生物室 （参加者） 11名（高11年9名・高5年2名）

10月30日（土） 生物室 （参加者） 31名（高5年）



「持続可能な未来のために」 生物資源学研究科 坂本 竜彦 教授

内容：住んでいる地域でグループに分かれ、自分の地域にある自然エネルギー等に注目し話し、地域活性化への興味・関心を深め、地元の活性化について考える。

日時・場所・参加生徒：

7月26日(月) 大会議室 (参加者) 37名(高1年13名・高11年24名)



【医学部附属病院】

「三重県の救急医療について」 救命救急センター 今井 寛 教授

内容：三重県の救急医療の実情について、実体験も基に紹介する。

日時・場所・参加生徒：

7月5日(月) 視聴覚室 (参加者) 68名(高5年)



【教養教育院】

「医学医療を支える解剖生理学」 太城 康良 教授

内容：解剖生理学の方面から、心臓・血圧を中心に学習しながら、高校の学習内容が大学の学術研究にどう活かされるのかを紹介する。

日時・場所・参加生徒：

8月5日(木) 大会議室 (参加者) 30名(高1年)



【地域人材教育開発機構】

「見つけよう、自分にあった学問分野」 宮下 伊吉 准教授

内容：SDGsマップを使いながら、大学生から大学で行っている研究や学びについて紹介してもらい、自分の将来について考える。

開催日時・参加生徒

5月25日(火) (参加者) 207名(高4年)

6月7日(月) (参加者) 26名(高5年)

【部活動の推進】

部活動は、学年や学級を超えて共通の興味と関心を追求する中で体力や技術の向上はもとより、マナーやルールを守る社会性を身につけ、自らの意思で参加するという自主性を養い、活動を通して個性の伸長を図ることを目的とする教育活動の一つです。

集団活動の中で協力することを学び、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、部活動の楽しさや喜びを感じ、学校生活に豊かさ

をもたらすだけでなく、生涯にわたってスポーツ・文化・芸術・科学に親しむ豊かな人間性を培うことを目指し、継続的に取り組んでいます。

中学生においては人間形成をするうえで重要な時期であるため、継続して続けることに関して部顧問と密接に連携し、自分を律し他人を思いやることや社会のルールを学ぶ一助としています。

主な活動実績はつぎの通りです。

令和4年3月現在のクラブ活動所属生徒数				
高等学校	文化部	22部	525名	(男146名・女379名)
	運動部	17部	615名	(男347名・女268名)
	生徒会直 属部、同好会、 愛好会	9部	122名	(男28名・女94名)
	計1,262名			
中学校	文化部	8部	150名	(男81名・女69名)
	運動部	11部	368名	(男206名・女162名)
	生徒会直 属部、同好会、 愛好会	8部	60名	(男18名・女42名)
	計578名			

活動実績

高等学校

運動部	インターハイ 全国大会出場	男子卓球部・女子柔道部・馬術部・なぎなた部
	国民体育大会出場	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
	その他東海大会 出場	陸上部・剣道部・女子バレー部・新体操部・女子卓球部・男子柔道部
文化部	全国大会出場	文芸部・箏曲部・将棋部・放送部・囲碁同好会
中学校		
文化部	全国大会出場	クイズ研究同好会



【危機管理・安全教育への取り組みの推進】

火災、地震など予測不可能な緊急事態が発生した場合、発生時に冷静な判断力、速やかな行動力を発揮できるよう、防災意識の高揚に取り組むべき事業を展開しています。

近年は想定をはるかに超える豪雨災害が頻発するなど、防災教育の重要性はますます高まっています。本校ではこのような予測不可能な緊急事態が発生した場合でも、災害に対する正しい知識に基づき、生徒が自ら冷静な判断力、速やかな行動力を発揮できるよう、4月28日（水）の津波対応避難訓練をはじめとする防災教育に取り組んでいます。また、6月に非常用リチウムイオンバッテリーを導入し、停電時の対応に備えています。

今年度は9月10日（金）に津消防署と連携し、合同避難訓練を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス「緊急事態宣言」が発令されたことにより、昨年度に引き続き中止となりました。

危機管理の取り組みとしては、学内機密情報の保護のため、パソコンや端末記憶装置の持ち込み等について、取扱規則を定めて個人情報の漏洩及びウイルス等の感染がないように、周知徹底を図っているほか、インターネット上での誹謗中傷等の書き込みなどにも傾注しています。保護者への連絡手段としては、「あんしんネット」、「きずなネット」等により、最新情報を随時的確に提供しています。



学校安全・生活指導、保健計画の推進

学校安全管理の立場から道路交通法改正に伴う交通ルール遵守の呼びかけ、自転車の校内安全点検などを行っています。また、自転車が絡む交通事故が多発していることから、津ドライビングスクールと三重中央自動車学校へ講師を依頼し、新入生に対して自転車交通安全講習を例年実施していますが、本年度は新型コロナウイルス感染防止のため中止となりました。本校は約800名の生徒が自転車通学をしており、学校周辺は狭い道路や見通しの悪い交差点が多いこともあり、事故をおこさないよう基本的なルールや事故の悲惨さを訴え、知識や技術の向上に努めるとともに生徒と教員が街頭登下校指導をするなど、マナーアップや安全意識の高揚にも傾注しています。

このほか社会生活面において、4月13日（火）には携帯電話・スマートフォンの使用マナーやネットワークにつながることの利便性、SNSの危険性に関する「スマホ携帯安全教室」を開催し、10月30日（土）には「薬の正しい使い方」と題して、学校薬剤師の秦賢司先生による薬物乱用防止教室を実施しました。

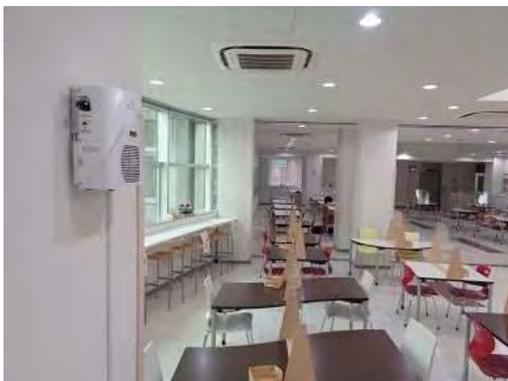
また、18歳より選挙権が与えられたことにより、12月8日（水）に楠井法律事務所へ依頼し、高校2年生および5年生を対象に「有権者としての心構え等について」をテーマに講演を実施し、主権者としての自覚と選挙への意識の高揚を図ることができました。

コロナウイルス感染拡大防止対策

学校における新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、継続して生徒、教職員の毎朝の検温体調のチェックをC l a s s iのアンケート機能を利用して毎日行っています。

また、一般的な感染症対策「3つの密」を避ける行動やマスクの着用、手指消毒、換気の徹底等について生徒、教職員ともに取り組んでいます。手指消毒については、各玄関、昇降口、教室にはアルコール消毒液を設置し登下校時、授業前後には手指消毒を各自行うよう勧奨しています。特に昇降口、玄関に設置した足踏み式のアルコール消毒については、手指消毒の際に手でポンプを触ることなく消毒ができるため衛生上も安心感が得られています。各校舎の共有部分の消毒については、引き続き教職員でアルコールによる消毒を1日1回放課後の清掃時間に実施しています。教員の昼食時の感染防止対策としては、大会議室にパーテーションを設置し昼食場所としています。

このほか、コロナウイルスの殺菌に有効とされているUV-Cの室内空気殺菌器を4台購入し、大会議室及び保健室に2台ずつ設置しました。また、小型オゾン除菌機を15台購入し、第一体育館学生ホール4台、本館2階学生ホール4台、自習室1台、職員室6台を設置しました。今後も、コロナウイルス感染拡大防止に務めるべく、新しく正しい情報を提供できるよう情報収集に努めていきたいと思っております。



【国際理解教育推進】

目 的	<p>国際感覚豊かな人間育成のため、授業や諸行事に参加しながら異国の学生生活を体験し、友好を深めること。</p> <p>互いの生活習慣や文化を学び、今後の交流振興に貢献すること。</p> <p>受け入れ家庭が、生徒とともに学び、生活することにより異文化理解を深めていくこと。</p>
-----	---

オーストラリア交換留学

平成6年（1994）より実施しているオーストラリアのセントモニカ校・パレード校との交換留学は、残念ながら今年度も昨年度とおなじく、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止いたしました。代替交流として少人数ではありましたが、オンラインにて生徒同士の交流を深めました。

イギリス語学研修

イギリス語学研修は、現地の語学学校インターナショナルクラスで他国の生徒とともに学ぶ英語学習を主眼に置いた研修プログラムで、中学3年生・高校生を対象に実施しています。研修中はホームステイをすることにより、英語の運用能力の向上や英語学習へのより一層の動機付けを促し、学習意欲を育むだけでなく、他国の生徒との交流が国際人としての感覚を養うことができます。

しかし、残念ながら今年度も昨年度とおなじく、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止いたしました。

イングリッシュ・キャンプ

本校A L Tと外部からのゲストA L Tを講師として、高校1年次夏季休暇中、II類特別選抜クラスの生徒を対象に「イングリッシュ・キャンプ」を実施しています。生徒達は、オールイングリッシュで様々なアクティビティに取り組んだり、一学期中の授業を通して準備してきたプレゼンテーションを保護者参観の中で発表するなど、英語や異文化への興味・関心を深めたり、スピーキング力を高める良い機会となっています。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年通りの規模での開催はできませんでしたが、代替行事として秋に「日本文化」をテーマとしたプレゼンテーション大会を実施しました。A L Tを含む英語科教員中心に審査をし、生徒たちの成長を促す良い機会となりました。

「すららネット」サービスの導入

本年度は、経済産業省が実施する「E d T e c hソフトウェア・サービスの導入実証事業」に採択された「すららネット」サービスを試験導入しました。E d T e c hは、テクノロジーで学校現場の課題を解決するもので、文部科学省が提唱する新時代への対応であるS T E A M S教育（S・サイエンス、T・テクノロジー、E・エンジニアリング、A・アート、M・マセマティクス、S・スポーツといった科学、技術、工学、美術、もしくは、リベラルアーツ・教養、数学、体育等の各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育）環境を構築するものです。高1年を中心に、個別最適化学習の試験的実践のため、英語文法力不足を克服する教材として利用しました。

教職員海外研修

教職員の海外研修の成果については、職員会議・学校校報・研究紀要において報告を行い、他の教員と情報共有することで教員全体の意識向上を図っており、その成果が生徒へ還元されていくことで、教育の質の向上につなげています。

今年度本校におきましては、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みて、教員の派遣は行いませんでした。

【学校自己点検・学校関係者評価】

学校自己評価

学校自己評価については、例年「学校の教育目標や教育活動の内容・方法、教育成果、学校の管理運営などについて、より一層の教育活動の充実を図る」という趣旨で教育活動全般にわたる自己点検・評価を行い、継続的な改善更新、改革を図っています。

令和3年度の目標

目指す学校像 (教育理念)

生徒・保護者・社会の期待に応え、伝統を重んじ信頼される私学を目指す。
校訓「言行忠信 表裏相応」の精神のもと、人間性豊かな人材を育成する。
崇高な志と社会に貢献できる人材を育成する。
自分の夢の実現に向けて、自ら学び、自己を律し、行動できる人材を育成する。

重点努力目標	人権・同和教育の推進、進路指導の徹底、基本的生活習慣の確立、規範意識に則った行動力を育成する、学力の向上と充実錬磨に努める、環境を大切に、世界に貢献できる人材の育成に努める。
点検・評価の日程	
令和3年 6月	前年度学校自己評価への評価結果報告及び継続的取組の促進
令和3年 12月	評価項目の確認と評価方法の決定
令和4年 3月末	評価実施
令和4年 4月	集計と分析
令和4年 5月	職員への結果の公表、評価結果の公表

授業アンケート

生徒がよい授業を受け、学力向上につなげるには、教員一人ひとりが授業改善に取り組む必要があります。教員自らが自分の授業を振り返り、自らの課題について分析できるよう生徒による授業アンケートを三学期に実施し、翌年度に各教員に詳細を知らせるとともに、保護者には概要を公表する予定です。

学校関係者評価委員会

自己評価や保護者、学校関係者による評価の実施・公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者や地域住民からの理解と参画を得ながら、学校・家庭・地域の連携協力により生徒の穏やかな成長を図り、健全な学校づくりを推進することを目的としています。

なお、評価委員は委員数8名（教育関係者、地元企業、地域自治会、保護者会）から成り立っています。

昨年度に続き今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となりました。

【教職員資質向上への取り組み（初任者研修、学内研修、中堅研修など）】

教育を取り巻く環境が大きく変化する中で学校教育に対する期待に応えるには、教員の資質能力向上とスキルアップが必要なため、それに対応できる教員研修を推進していきます。

多種多様な資質能力を持つ人材の集まりである教員集団が連携することにより充実した教育活動が展開できることから、その能力の保持のためにも研修は重要と考えられます。

研修については、これまでの自分自身の教育活動を振り返るとともに、教育界の最新情報を理解して将来への課題を自覚し、これからのリーダーシップを発揮するためのものです。

本校のほとんどの生徒が大学進学を希望していることから、大学ごとの入試問題検討会にも積極的に参加し、大学によって毎年変更される問題傾向や入試情報を少しでも生徒に有利な環境に導くべく把握に努めています。

また、公立中学校へ出向いて行う模擬授業は、本校教員の資質を問われる関係上、普段以上の緊張感で接し、より自分自身の研究も必要となり、教員としての資質向上につながっていくものと考えられます。

新規採用者は、採用年度に学校の教員としての適性を考える機会として、職務の遂行に必要な実践的指導力と使命感の修養ならびに幅広い知見の習得及び教育指導の充実を図るための課題の解決等を目的に外部研修に参加し、モチベーションを高めています。さらに、本校においても独自に指導教員が生徒との接し方や指導方法、事務的内容を伝授し、教員として一日も早い自立を目的として、年間10回の研修を実施しており、終了後は受講についてのアンケートおよび校長や教頭を囲んでオフサイトミーティングを行い、翌年度の実施計画案に役立てています。

令和3年度 初任者研修 年間計画表

	研修テーマ	実施日時	担当者	研修場所	備考
1	初任研OR	4月 7日(水) 11:00~11:50	高梨	4号館会議室	教頭
2	高田の歴史と建学の精神について	4月12日(月) 14:40~15:30	学校長		学校長
3	学校法人の規定について	4月13日(火) 14:40~15:30	加藤		事務局長
4	コンプライアンス (服務規程と教育法規)	4月19日(月) 15:40~16:30	宇河		副校長
5	教職の実務 中・高の教務	4月26日(月) 15:40~16:30	谷口		教務部長
6	生徒指導	4月30日(金) 15:40~16:30	福山		生徒指導部長
7	進路指導	5月10日(月) 15:40~16:30	古川		進路指導部長
8	特別支援教育・カウンセリング	5月21日(金) 15:40~16:30	的場 松尾		養護教育 学校カウンセラー
9	学校の危機管理	5月24日(月) 15:40~16:30	眞岡		教頭
10	人権教育推進	6月 7日(月) 15:40~16:30	鈴木		人権教育委員

このほか、中堅以上の教員についても、これからの学校をリードするための知識や能力を養うため例年外部研修会にも参加していますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、参加の取りやめ、または研修会が中止となっています。

今後もできる限り外部の講習会や研修会、出前授業に積極的に参加し、学校内では得ることのできない情報を吸収することで、新人からベテランまで教員としての資質向上に役立てていきたいと考えています。

【生徒募集活動】

高田中・高等学校公開イベント

小学生を対象とした「学びのひろば in 高田」

地域交流事業の一つとして、小学生（4・5年生）を対象とした公開講座「学びのひろば in 高田」を年2回開催しています。本年度は、様々な分野に興味関心を持つ児童たちを募集したいと考え、従来の「算数オリンピック」に加え、他教科もオリンピックを実施するなど、昨年度までのプログラムをリニューアルしました。また、各講座で、探究する楽しさを児童たちと共有しながら、本校の魅力や情報の発信にも努めています。第1回の開催は、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、8月28日（土）から、10月31日（日）に延期になりましたが、117名の児童と保護者の参加があり、俳句作りや各講座のプログラムを楽しんでいただくことができました。第2回は、三重県下への新型コロナウイルスまん延防止等重点措置の適用により、残念ながら開催は中止となりました。

学びのひろば in 高田		
日時	10月31日(日) <8月28日(土)より延期>	2月11日(金・祝) <中止>
テーマ	① たかだ夏季国語オリンピック「感性を競え！俳句名人」 ② 算数「たのしい算数教室」 ③ 社会「おもしろ社会科クイズ」	① たかだ冬季理科オリンピック「知力を競え！科学アスリート」 ② 英語「英語であそぼう」 ③ 仏教「歩いてみよう高田本山」
定員	120名	120名



中学校入試説明会

本年度は、11月3日（水・祝）に受験生と保護者を対象とした中学入試説明会を開催しました。当初は9月23日（金）の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、延期いたしました。昨年同様、参加時間帯を地区で指定させていただき、午前の部と午後の部の2回に分けて実施しました。午前の部は183家族が参加、午後の部は209家族が参加されました。



その他の生徒募集活動としては、広くマスコミを利用した広報活動や、塾を対象とした説明会を積極的に実施し、各地域で開催される私立中学展にも参加しピーアールに努めています。

高等学校公開イベント・学校見学会・個別見学会

高等学校に関しては、教員が各中学校を訪問し受験生と保護者に対し、入試や本校の教育内容について詳細に説明しています。

8月21日（土）に予定していた学校見学会は、中学生約800名と保護者約500名の参加申し込みがありましたが、県内の新型コロナウイルス感染拡大を受け中止といたしました。

そこで、10月16日（土）、17日（日）に学校見学会ミニを1日2回臨時開催することとなりました。約300名の中学生にご参加いただき、詳しい学校説明や校内見学ツアーなどを行うことができました。

10月30日（土）・11月6日（土）・11月20日（土）の個別見学会は、例年通り開催することができ、約500名の中学生・保護者に、学校説明、校内見学ツアー、部活動見学や個別相談にも参加いただきました。部活動見学では、活動する生徒達も見ていただき、本校のリアルな日常の雰囲気も味わっていただきました。どちらもコロナ禍で人数等の制限がある中、一つ一つのイベント規模は小さいですが、本校の良さを知っていただける温かみのあるイベントになりました。

なお、学費など経済的不安を抱えられている家庭については、国や県の就学支援制度などを活用することで、安心して教育が受けられる体制を整えていることをピーアールしています。



Web 出願

今年度より高校入試におきまして、Web 出願システムを導入しました。これによりパソコンだけでなくスマートフォンやタブレットから期間内であれば24時間いつでも手続きできるようになりました。出願登録、入学検定料の決済、合否照会等のこれまで紙面で行っていた書類の取り寄せや郵送などがなくなったことで、手続きが軽減されました。またクレジット決済を利用することで銀行窓口にいかなくとも入学検定料の決済が可能となり志願者にとって利便性が向上しました。本校も出願登録された情報をデータで処理できるようになったことで、入試処理作業の負担が大幅に軽減されました。各中学校側としてもWeb上で志願者の出願状況や検定料の入金確認および合否結果の把握ができ、また調査書の提出もWebを利用することで入試手続きの負担が軽減されたと思われます。その他にも志願者や中学校に対してメールで即日連絡することが可能となり、変動する感染症の状況等にも対応することができました。

出願フォームにアクセス



QRコードの読み取り または
<https://lsg.grapecity.com/mic-takada-hj/app> を入力し、
Web 出願フォームにアクセスしてください。



施設整備の整備事業実績

1号館渡り屋根他修繕工事

施行業者 : (株) 辻工務店
施行費用 : 784,300円
施工時期 : 8月26日(木)～28日(土)

東グラウンド防球ネット他修繕および新設工事

施行業者 : サクラネット(有)
施行費用 : 1,347,550円
施工時期 : 8月28日(土)～9月7日(火)

冷水機入替工事(4台)

施行業者 : 辻井電気設備
施行費用 : 840,400円
施工時期 : 8月18日(水)～20日(金)

UV-C殺菌用空気殺菌器(4台)

納入業者 : 光スチール家具(株)
納入費用 : 382,360円
納入日 : 9月27日(月)



オゾン除菌脱臭装置(15台)

納入業者 : (株)クラウドエム
納入費用 : 2,301,750円
納入日 : 令和4年3月8日(火)



財務の概要

資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。

本学苑の資金収支決算総額は42億4,478万円となり、前年度の決算額と比較し3億4,002万円の減額となりました。

令和3年度 資金収支計算書総括

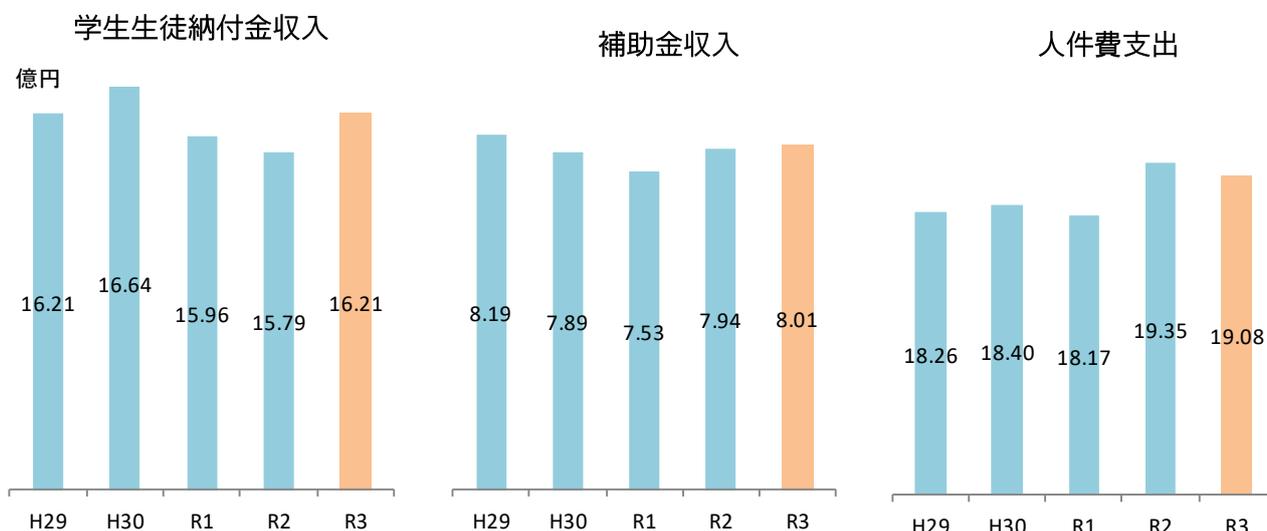
(単位：千円)

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,621,975	42,234	人件費支出	1,908,720	▼ 27,141
手数料収入	48,618	225	教育研究経費支出	299,895	10,276
寄付金収入	9,011	▼ 150	管理経費支出	90,790	6,859
補助金収入	801,409	6,886	借入金等利息支出	0	▼ 366
資産売却収入	59,368	▼ 108,335	借入金等返済支出	0	▼ 200,000
付随事業・収益事業収入	19,184	3,786	施設関係支出	0	▼ 27,192
受取利息・配当金収入	10,161	▼ 2,596	設備関係支出	14,437	▼ 20,921
雑収入	122,061	▼ 22,942	資産運用支出	462,083	▼ 197,917
借入金等収入	0	0	その他の支出	1,125,342	41,773
前受金収入	285,451	4,956	資金支出調整勘定	△ 59,204	135
その他の収入	1,310,238	▼ 338,760			
資金収入調整勘定	△ 370,939	49,950			
当年度収入合計	3,916,535	▼ 364,746	当年度支出合計	3,842,063	▼ 414,493
前年度繰越支払資金	328,253	24,725	翌年度繰越支払資金	402,725	74,472
収入の部合計	4,244,788	▼ 340,021	支出の部合計	4,244,788	▼ 340,021

(注) △は計算書式上のマイナス表示、▼は比較上のマイナス表示(以下同じ)。

前年比は令和2年度決算との比較です。

主要科目の推移



令和3年度 資金収支計算書（短期大学）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	485,752	74,280	人件費支出	421,273	▼ 7,113
手数料収入	8,504	▼ 1,305	教育研究経費支出	141,560	21,555
寄付金収入	1,000	0	管理経費支出	30,568	3,001
補助金収入	111,997	15,961	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	470	470	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	19,184	3,786	施設関係支出	0	0
受取利息・配当金収入	2	0	設備関係支出	9,026	▼ 6,701
雑収入	12,502	▼ 5,110	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	203,475	4,727
前受金収入	50,230	▼ 14,035	資金支出調整勘定	△ 20,567	1,528
その他の収入	190,460	▼ 18,820			
資金収入調整勘定	△ 67,695	▼ 10,522			
当年度収入合計	812,404	44,706	当年度支出合計	785,335	16,996
前年度繰越支払資金	50,652	28,810	翌年度繰越支払資金	51,592	940
収入の部合計	863,056	73,516	支出の部合計	836,926	17,935

令和3年度 資金収支計算書（中・高等学校）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,136,223	▼ 32,046	人件費支出	1,477,345	▼ 18,482
手数料収入	40,115	1,530	教育研究経費支出	158,335	▼ 11,279
寄付金収入	4,011	▼ 150	管理経費支出	38,465	3,637
補助金収入	689,412	▼ 9,076	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	0	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	0	0	施設関係支出	0	▼ 27,192
受取利息・配当金収入	2	0	設備関係支出	5,082	▼ 6,630
雑収入	102,394	▼ 24,699	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	744,380	27,846
前受金収入	235,221	18,991	資金支出調整勘定	△ 29,534	▼ 3,037
その他の収入	850,390	127,451			
資金収入調整勘定	△ 302,994	60,721			
当年度収入合計	2,754,773	142,722	当年度支出合計	2,394,073	▼ 35,136
前年度繰越支払資金	162,868	▼ 4,683	翌年度繰越支払資金	206,057	43,189
収入の部合計	2,917,642	138,039	支出の部合計	2,600,129	8,052

活動区分資金収支計算書の概要

活動区分資金収支計算書では、資金収支計算書の決算額を「教育活動」「施設設備等活動」「その他の活動」の三つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにします。

令和3年度 活動区分資金収支計算書

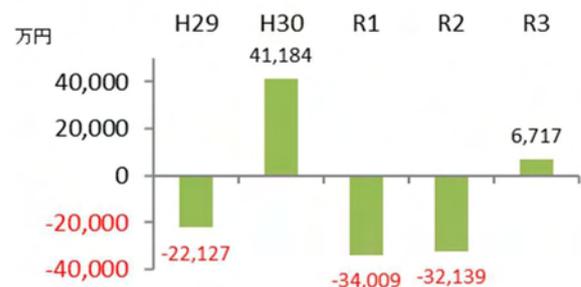
(単位:千円)

科 目		決算額	前年比	科 目		決算額	前年比
教育活動による資金収支	学生生徒等納付金収入	1,621,975	42,234	その他の活動による資金収支	有価証券売却収入	58,898	▼ 108,657
	手数料収入	48,618	225		退職給与引当特定資産取崩収入	100,000	100,000
	特別寄付金収入	0	0		借入金等収入	0	0
	一般寄付金収入	9,011	▼ 150		預り金受入収入	844,076	6,103
	経常費等補助金収入	801,409	22,677		仮払金回収収入	13,084	8,164
	付随事業収入	19,184	3,786		立替金回収収入	44,963	9,907
	雑収入	122,061	▼ 22,942		修学旅行費預り資産取崩収入	67,753	313
	教育活動資金収入計	2,622,256	45,830		修学旅行費預り金受入収入	66,733	▼ 311
					卒業諸費預り資産取崩収入	14,275	▼ 1,686
					卒業諸費預り金受入収入	14,386	▼ 1,121
施設設備等活動による資金収支	人件費支出	1,908,720	▼ 27,141	小計	1,224,167	12,711	
	教育研究経費支出	299,895	10,276	受取利息・配当金収入	10,161	▲ 2,596	
	管理経費支出	90,790	6,859	その他の活動資金収入計	1,234,328	10,116	
	教育活動資金支出計	2,299,405	▼ 10,006	借入金等返済支出	0	▼ 200,000	
	差引	322,851	55,836	有価証券購入支出	0	▼ 300,000	
	調整勘定等	40,461	88,990	退職給与引当特定資産繰入収入	101,000	101,000	
	教育活動資金収支差額	363,312	144,826	預り金支払支出	849,543	19,100	
				仮払金支払支出	13,084	8,164	
				立替金支払支出	40,371	▼ 3,233	
				修学旅行費預り資産繰入支出	66,733	▼ 311	
その他の活動による資金収支	施設設備補助金収入	0	▼ 15,791	修学旅行費預り金支払支出	67,753	313	
	施設設備売却収入	470	322	卒業諸費預り資産繰入支出	14,386	▼ 1,121	
	第2号基本金引当特定資産取崩収入	0	0	卒業諸費預り金支払支出	14,275	▼ 1,686	
	施設設備拡充引当特定資産取崩収入	3,245	▼ 546,755	長期前払金支払支出	10	▼ 276	
	施設設備等活動資金収入計	3,715	▼ 562,224	小計	1,167,154	▲ 378,051	
	施設関係支出	0	▼ 27,192	借入金等利息支出	0	▼ 366	
	設備関係支出	14,437	▼ 20,921	その他の活動資金支出計	1,167,154	▲ 378,417	
	第2号基本金引当特定資産繰入支出	0	0	差引	67,174	388,533	
	施設設備拡充引当特定資産繰入支出	361,083	1,083	調整勘定等	0	0	
	施設設備等活動資金支出計	375,520	▼ 47,030	その他の活動資金収支差額	67,174	388,533	
差引	△ 371,805	▼ 515,194	支払資金の増減額	74,472	6		
調整勘定等	15,791	31,582	前年度繰越支払資金	328,253	24,725		
施設設備等活動資金収支差額	△ 356,014	▼ 483,612	翌年度繰越支払資金	402,725	74,472		
小 計	7,297	▼ 338,786					

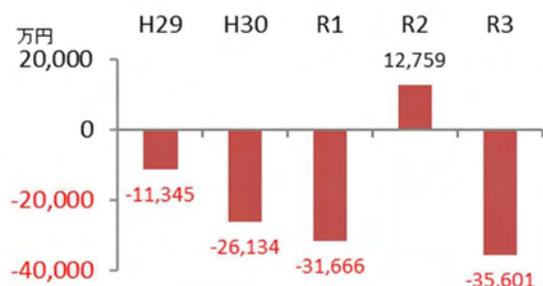
教育活動による資金収支差額



その他の活動による資金収支差額



施設設備等活動による資金収支差額

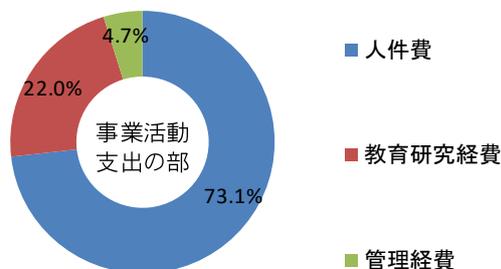
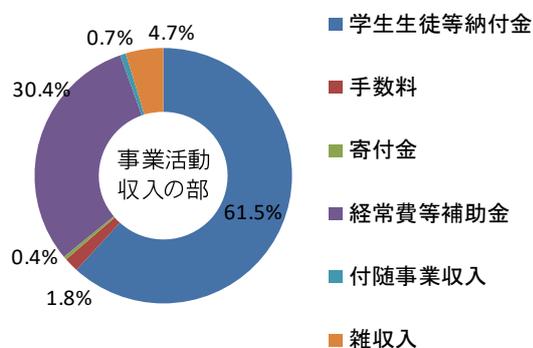


事業活動収支計算書の概要

事業活動収支計算書では、当該会計年度の諸活動に対応する事業活動収入・支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにします。収支を経常的なものと臨時的なものに、さらに経常的な収支を教育活動と教育活動外とに分けて把握することができます。

(単位：千円)

科 目		決算額	%	科 目		決算額	%
教育活動収入の部	事業活動収入			特別収入	資産売却差額	2,745	0.1%
	学生生徒等納付金	1,621,975	61.5%		その他の特別収入	0	0.0%
	手数料	48,618	1.8%		本部負担金収入	0	0.0%
	寄付金	10,268	0.4%		特別収入計	2,745	0.1%
	経常費等補助金	801,409	30.4%		資産処分差額	4,665	0.2%
	付随事業収入	19,184	0.7%		その他の特別支出	0	0.0%
	雑収入	123,882	4.7%		本部負担金	0	0.0%
	教育活動収入計	2,625,335	99.5%		特別支出計	4,665	0.2%
	事業活動支出の部				特別収入差額	△ 1,920	
	人件費	1,923,598	73.1%		〔予備費〕		
教育研究経費	578,366	22.0%	基本金組入前当年度収支差額	6,739			
管理経費	124,875	4.7%	基本金組入額合計	△ 11,033			
徴収不能額等	0	0.0%	当年度収支差額	△ 4,295			
教育活動支出計	2,626,838	99.8%	前年度繰越収支差額	△ 4,995,509			
教育活動収支差額	△ 1,503		基本金取崩額	0			
教育活動外収入の部			翌年度繰越収支差額	△ 4,999,803			
収入の活動			(参考)				
受取利息・配当金	10,161	0.4%	事業活動収入計	2,638,242			
その他の教育活動外収入	0	0.0%	事業活動支出計	2,631,503			
教育活動外収入計	10,161	0.4%					
支出の活動							
借入金等利息	0	0.0%					
その他の教育活動外支出	0	0.0%					
教育活動外支出計	0	0.0%					
教育活動外収支差額	10,161						
経常収支差額	8,658						



基本金について

基本金には第1号基本金から第4号基本金まで4種類の基本金があります。

第1号基本金	施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、本年度の組入額は1,103万円でした。主な内訳は、短大グランドピアノ及び複合機の更新、中高の空気除菌用オゾン装置導入によるものです。
第2号基本金	施設設備を取得するため事前に組入れる金額で、本年度はありませんでした。
第3号基本金	教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、本学苑は組入れを行っていません。
第4号基本金	学校法人の円滑な運営に必要な運転資金の額であり、今年度は妥当性の検証の結果、妥当と判断されるため、組入・取崩共に行っていません。

短期大学

事業活動収支計算書

(単位：千円)

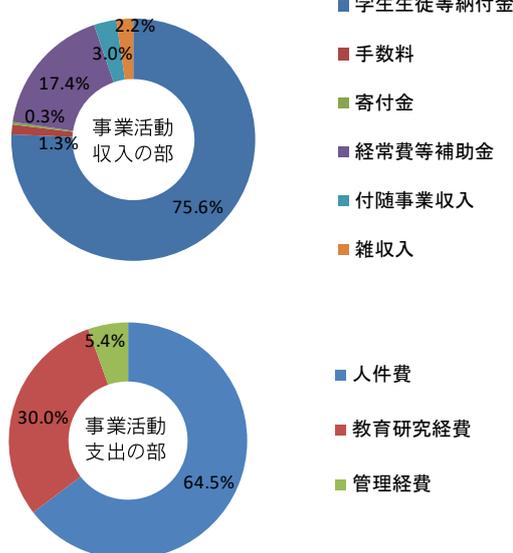
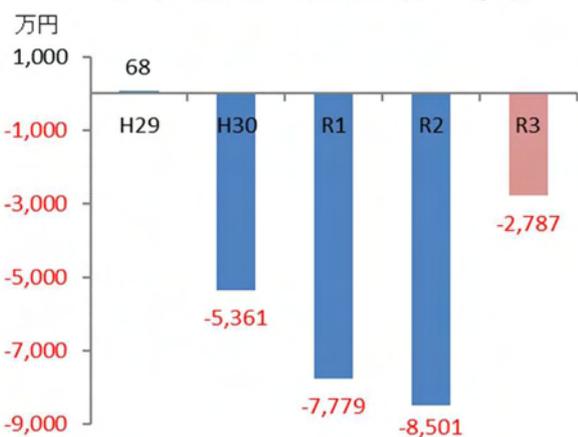
科 目		決算額	%	前年比	科 目		決算額	%	前年比	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	485,752	75.6%	74,280	特別収入支	資産売却差額	450	0.1%	450	
	手数料	8,504	1.3%	▼ 1,305		収入の部	その他の特別収入	0	0.0%	0
	寄付金	2,139	0.3%	931		本部負担金収入	0	0.0%	0	
	経常費等補助金	111,997	17.4%	15,961		特別収入計	450	0.1%	450	
	付随事業収入	19,184	3.0%	3,786		支出の部	資産処分差額	566	0.1%	566
	雑収入	14,324	2.2%	▼ 4,773		その他の特別支出	0	0.0%	0	
	教育活動収入計	641,898	99.9%	88,881		本部負担金	0	0.0%	0	
	人件費	432,658	64.5%	4,208		特別支出計	566	0.1%	566	
	教育研究経費	201,003	30.0%	25,423		特別収入差額	△ 116		▼ 116	
	管理経費	36,102	5.4%	2,099		〔予備費〕			0	
徴収不能額等	0	0.0%	0	基本金組入前当年度収支差額	△ 27,979		57,036			
教育活動支出計	669,763	99.9%	31,729	基本金組入額合計	△ 10,647		▼ 9,041			
教育活動収支差額	△ 27,865		57,151	当年度収支差額	△ 38,626		47,995			
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	2	0.0%	0	前年度繰越収支差額	△ 2,643,152		▼ 86,621		
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0	基本金取崩額	0		0		
	教育活動外収入計	2	0.0%	0	翌年度繰越収支差額	△ 2,681,779		▼ 38,626		
	借入金等利息	0	0.0%	0						
教育活動外支出の部	その他の教育活動外支出	0	0.0%	0	(参考)					
	教育活動外支出計	0	0.0%	0	事業活動収入計	642,350		89,331		
	教育活動外収支差額	2		0	事業活動支出計	670,329		32,295		
経常収支差額	△ 27,863		57,152							

財務比率推移表 (事業活動収支関係)

比 率	R1	R2	R3	全国平均	比 率	R1	R2	R3	全国平均
人件費率	74.7	77.5	67.4	60.6	学生生徒等納付金比率	73.4	74.4	75.7	75.8
人件費率	101.7	104.1	89.1	79.9	経常寄付金率	0.3	0.2	0.3	1.3
教育研究経費率	32.6	31.7	31.3	37.6	経常補助金率	16.0	17.4	17.4	15.5
管理経費率	5.9	6.1	5.6	9.6	減価償却率	9.2	9.5	9.6	12.3
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.1	経常収支差額率	△ 13.1	△ 15.4	△ 4.3	△ 8.1
事業活動収支差額比率	△ 13.3	△ 15.4	△ 4.4	△ 7.7	教育活動収支差額比率	△ 13.1	△ 15.4	△ 4.3	△ 9.2
基本金組入後収支比率	119.0	115.7	106.1	117.0					

※全国平均は前年度の値

教育活動収支差額の推移



中・高等学校

事業活動収支計算書

(単位：千円)

科 目		決算額	%	前年比	科 目		決算額	%	前年比	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	1,136,223	57.6%	▼ 32,046	特別収支	資産売却差額	0	0.0%	0	
	手数料	40,115	2.0%	1,530		収入の部	その他の特別収入	0	0.0%	▼ 15,791
	寄付金	4,129	0.2%	▼ 144		本部負担金収入	0	0.0%	0	
	経常費等補助金	689,412	35.0%	6,715		特別収入計	0	0.0%	▼ 15,791	
	付随事業収入	0	0.0%	0		支出の部	資産処分差額	905	0.0%	343
	雑収入	102,394	5.2%	▼ 24,699		その他の特別支出	0	0.0%	0	
	教育活動収入計	1,972,272	100.0%	▼ 48,644		本部負担金	0	0.0%	0	
	特別収支差額					特別支出計	905	0.0%	343	
	特別収支差額					特別収支差額	-905		▼ 16,134	
	特別収支差額					〔予備費〕			0	
教育活動支出の部	人件費	1,480,838	77.0%	▼ 6,064	基本金組入前当年度収支差額	49,978		▼ 43,753		
	教育研究経費	377,362	19.6%	▲ 19,208	基本金組入額合計	1,160		236,911		
	管理経費	63,192	3.3%	4,248	当年度収支差額	51,138		193,158		
	徴収不能額等	0	0.0%	0	前年度繰越収支差額	△ 261,417		▼ 142,020		
	教育活動支出計	1,921,392	100.0%	▼ 21,024	基本金取崩額	0		0		
	教育活動収支差額	50,880		▼ 27,619	翌年度繰越収支差額	△ 210,279		51,138		
	教育活動収支差額	50,880		▼ 27,619	(参考)					
	教育活動外収入の部				事業活動収入計	1,972,275		▼ 64,434		
	受取利息・配当金	2	0.0%	1	事業活動支出計	1,922,297		▼ 20,681		
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0						
教育活動外収入計	2	0.0%	1							
教育活動外支出の部										
借入金等利息	0	0.0%	0							
その他の教育活動外支出	0	0.0%	0							
教育活動外支出計	0	0.0%	0							
教育活動外収支差額	2		1							
経常収支差額	50,883		▼ 27,619							

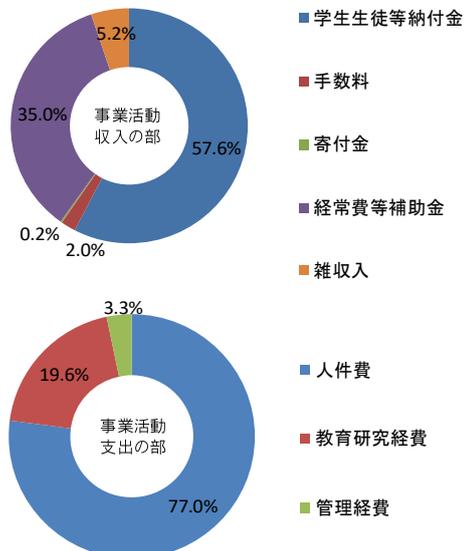
財務比率推移表 (事業活動収支関係)

比 率	R1	R2	R3	全国平均	比 率	R1	R2	R3	全国平均
人件費率	71.9	73.6	75.1	64.3	学生生徒等納付金比率	60.9	57.8	57.6	53.3
人件依存率	118.1	127.3	130.3	120.6	経常寄付金率	0.2	0.2	0.2	1.5
教育研究経費率	25.6	19.6	19.1	27.7	経常補助金率	34.5	33.8	35.0	37.5
管理経費率	3.3	2.9	3.2	5.7	減価償却額率	13.1	12.9	12.7	11
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.3	経常収支差額率	△ 0.8	3.9	2.6	2.1
事業活動収支差額比率	△ 0.8	4.6	2.5	3.6	教育活動収支差額比率	△ 0.8	3.9	2.6	1.7
基本金組入後収支比率	118.3	107.9	97.4	105.3					

全国平均は前年度の値

教育活動収支差額の推移

万円



令和3年度補助金一覧表

(単位：千円)

補助金名	当年度 ①	前年度 ②	差異 ①－②
短期大学補助金 合計	111,996	96,035	15,961
国庫補助金 計	111,901	95,961	15,940
私立大学等経常費補助金	80,500	77,727	2,773
授業料等減免費交付金	31,401	18,234	13,167
地方公共団体補助金 計	95	74	21
結核健康診断予防接種費補助金	95	74	21
中・高等学校補助金 合計	689,410	698,483	△ 9,073
高等学校補助金 計	529,131	557,786	△ 28,655
国庫補助金 計	1,500	16,526	△ 15,026
私立学校施設整備費補助金(施設環境改善整備)	0	6,798	△ 6,798
私立学校情報通信ネットワーク環境施設整備費補助金	0	4,166	△ 4,166
私立大学等研究設備整備費等補助金 (ICT教育設備整備)	0	2,561	△ 2,561
学校保健特別対策事業費補助金 (感染症対策・学習保障等支援)	0	1,500	△ 1,500
学校保健特別対策事業費補助金 (学校教育活動継続支援)	150	1,200	△ 1,050
学校保健特別対策事業費補助金 (感染症対策マスク購入等)	0	301	△ 301
学校保健特別対策事業費補助金 (学校等における感染症対策等支援)	1,350	0	1,350
地方公共団体補助金 計	527,631	541,260	△ 13,629
私立高等学校等振興補助金	522,684	535,136	△ 12,452
入学金補助金	1,080	1,327	△ 247
人権教育推進事業費補助金	195	187	8
結核健康診断予防接種費補助金	190	196	△ 6
外国人語学指導助手補助金	300	300	0
教育改革推進事業補助金	300	300	0
私立高等学校振興補助金 (津市)	2,622	2,707	△ 85
私立高等学校振興補助金 (鈴鹿市)	260	309	△ 49
スポーツ奨励補助金 (津市)	0	48	△ 48
三重県私立学校感染症対策・学びの保障支援補助金	0	750	△ 750
中学校補助金 計	160,279	140,697	19,582
国庫補助金 計	1,000	4,168	△ 3,168
私立学校施設整備費補助金(施設環境改善整備)	0	2,266	△ 2,266
学校保健特別対策事業費補助金 (感染症対策・学習保障等支援)	0	1,000	△ 1,000
学校保健特別対策事業費補助金 (学校教育活動継続支援)	100	800	△ 700
学校保健特別対策事業費補助金 (感染症対策マスク購入等)	0	102	△ 102
学校保健特別対策事業費補助金 (学校等における感染症対策等支援)	900	0	900
地方公共団体補助金 計	159,279	136,529	22,750
私立高等学校等振興補助金	158,967	135,884	23,083
人権教育推進事業費補助金	312	145	167
三重県私立学校感染症対策・学びの保障支援補助金	0	500	△ 500
総 計	801,406	794,518	6,888

貸借対照表の概要

貸借対照表は、令和4年3月31日現在の財政状態を示しています。

令和3年度 貸借対照表（総括）

（単位：千円）

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	7,996,494	7,993,972	2,522
有形固定資産	6,178,073	6,472,242	△ 294,169
土地	1,025,123	1,025,123	0
建物	4,086,611	4,292,005	△ 205,394
構築物	691,697	760,124	△ 68,427
教育研究用機器備品	92,248	108,537	△ 16,290
管理用機器備品	6,878	6,410	469
図書	230,068	228,707	1,361
車輜	15,529	21,417	△ 5,888
学苑林	29,919	29,919	0
建設仮勘定	0	0	0
特定資産	1,797,607	1,468,769	328,838
退職給与引当特定資産	263,490	262,490	1,000
施設設備拡充引当特定資産	1,534,117	1,206,279	327,838
第2号基本金引当特定資産	0	0	0
その他の固定資産	20,813	52,961	△ 32,148
借地権	2,258	2,258	0
電話加入権	1,286	1,286	0
施設利用権	214	285	△ 71
ソフトウェア	1,035	968	67
有価証券	13,298	42,977	△ 29,679
差し入れ保証金	350	350	0
長期前払金	2,373	4,837	△ 2,464
流動資産	588,469	570,779	17,691
現金預金	402,725	328,253	74,472
未収入金	90,444	141,724	△ 51,280
前払金	91	91	0
立替金	34,205	38,797	△ 4,592
修学旅行費預り資産	55,236	56,256	△ 1,020
卒業諸費預り資産	5,768	5,657	111
資産の部合計	8,584,963	8,564,751	20,213
固定負債	263,346	248,468	14,878
長期借入金	0	0	0
退職給与引当金	263,346	248,468	14,878
流動負債	432,987	434,391	△ 1,404
短期借入金	0	0	0
未払金	59,113	59,097	16
前受金	285,451	280,495	4,956
預り金	27,419	32,886	△ 5,467
修学旅行費預り金	55,236	56,256	△ 1,020
卒業諸費預り金	5,768	5,657	111
負債の部合計	696,334	682,860	13,474
基本金	12,888,433	12,877,399	11,033
第1号基本金	12,716,433	12,705,399	11,033
第2号基本金	0	0	0
第4号基本金	172,000	172,000	0
繰越収支差額	△ 4,999,803	△ 4,995,509	△ 4,295
翌年度繰越収支差額	△ 4,999,803	△ 4,995,509	△ 4,295
純資産の部合計	7,888,630	7,881,891	6,739
負債及び純資産の部合計	8,584,963	8,564,751	20,213

注記 1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

○徴収不能引当金・・・・・・・・・・未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

○退職給与引当金

(短期大学) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 135,906,640円 の100%を基にして私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。

(中学校及び高等学校) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 1,022,197,582円 から三重県私学振興会より交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。

(2) その他重要な会計方針

○有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

2. 重要な会計方針の変更等

該当無し

3. 減価償却額の累計額の合計額

6,577,974,507円

4. 徴収不能引当金の合計額

0円

5. 担保に供されている資産の種類及び額

0円

6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金へ組入れを行うこととなる金額

14,488,100円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策
第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

① 総括表

(単位 円)

	当年度 (令和4年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	473,297,674	487,610,091	14,312,417
（うち満期保有目的の債券）	(200,000,000)	(200,527,900)	(527,900)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	671,511,806	636,435,905	△35,075,901
（うち満期保有目的の債券）	(671,511,806)	(636,435,905)	(△35,075,901)
合 計	1,144,809,480	1,124,045,996	△20,763,484
（うち満期保有目的の債券）	(871,511,806)	(836,963,805)	(△34,548,001)
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	1,144,809,480	-	-

② 明細表

(単位 円)

種 類	当年度 (令和4年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債 券	971,511,806	948,799,800	△22,712,006
株 式	3,297,674	15,501,191	12,203,517
投資信託	170,000,000	159,745,005	△10,254,995
貸付信託	-	-	-
その他	-	-	-
合 計	1,144,809,480	1,124,045,996	△20,763,484
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	1,144,809,480	-	-

財務比率推移表

(単位：%)

比 率	R1	R2	R3	全国平均	評	算式 (×100)	説 明
固 定 資 産 率	94.8	93.3	93.1	85.1	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
有 形 固 定 資 産 率	76.8	75.6	72.0	59.7	▼	$\frac{\text{有 形 固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	土地・建物等の有形固定資産の構成比が資産構成上バランスがとれているか
特 定 資 産 率	17.0	17.1	20.9	20.2	△	$\frac{\text{特 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	長期に亘って特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況はどうか
流 動 資 産 率	5.2	6.7	6.9	14.9	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
固 定 負 債 率	2.9	2.9	3.1	6.0	▼	$\frac{\text{固 定 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	長期的な負債構成のバランスと比重はどうか
流 動 負 債 率	6.9	5.1	5.0	5.1	▼	$\frac{\text{流 動 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	短期的な負債構成のバランスと比重はどうか
内 部 留 保 率	11.5	13.5	17.7	26.3	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	特定資産と有価証券と現金預金を合計した「運用資産」から総負債を引いた金額の総資産に占める割合はどうか
運 用 資 産 率	69.8	68.0	82.0	1.8	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{外 部 負 債}}{\text{経 常 支 出}}$	一年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているか
純 資 産 率	90.1	92.0	91.9	88.9	△	$\frac{\text{純 資 産}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	純資産の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
繰 越 収 支 差 額 率	△ 54.4	△ 58.3	△ 58.2	△ 19.6	△	$\frac{\text{繰 越 収 支 差 額}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	繰越収支差額の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
固 定 比 率	105.2	101.4	101.4	95.7	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産}}$	土地・建物等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか
固 定 長 期 適 合 率	101.9	98.3	98.1	89.6	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産} + \text{固 定 負 債}}$	自己資金のほか長期借入金で固定資産を取得する原則にどの程度適合しているか
流 動 比 率	74.6	131.4	135.9	294.0	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	1年以内に償還する流動負債に対して1年以内に現金化が可能な流動資産はどの程度用意されているか
総 負 債 比 率	9.9	8.0	8.1	11.1	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	純資産に対する他人資金の比重はどうか
負 債 比 率	10.9	8.7	8.8	12.5	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{純 資 産}}$	他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないか
前 受 金 率	108.7	117.0	141.1	537.8	△	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	翌年度分の入学金等が現金預金の形で適切に保有されているか
退 職 給 与 引 当 特 定 資 産 保 有 率	102.0	105.6	100.1	61.6	△	$\frac{\text{退 職 給 与 引 当 特 定 資 産}}{\text{退 職 給 与 引 当 金}}$	退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているか
基 本 金 比 率	99.8	101.2	101.3	97.1	△	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基 本 金 要 組 入 額}}$	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合はどうか
減 価 償 却 比 率	48.0	50.3	50.3	54.5	～	$\frac{\text{減 価 償 却 累 計 額 (図 書 除 け)}}{\text{減 価 償 却 資 産 取 得 価 額 (〃)}}$	減価償却累計額が取得価格に対してどの程度占めているか
積 立 率	30.0	28.2	33.8	70.8	△	$\frac{\text{運 用 資 産}}{\text{要 積 立 額}}$	持続的かつ安定的な経営を継続するために必要な運用資産の保有状況はどうか

評価指標 △：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない

全国平均は前年度の値

財産目録

(単位：千円)

一、	資	産	総	額	8,584,963
内	1.	基	本	財	6,149,189
	2.	運	用	財	2,435,774
二、	負	債	総	額	696,334
三、	正	味	財	産	7,888,630

項	目	数	量	金	額
(一)	資	産		8,584,963	
1.	基	本		6,149,189	
(ア)	土	102,865.92	m ²	1,025,123	
(イ)	建	41,560.74	m ²	4,086,611	
(ウ)	構	221	点	691,697	
(エ)	図	104,240	冊	230,068	
(オ)	教	18,860	点	92,248	
(カ)	管	183	点	6,878	
(キ)	車	9	台	15,529	
(ク)	ソ	5	本	1,035	
(ケ)	建			0	
2.	運	用		2,435,774	
(ア)	現	金及び預金		402,725	
(イ)	修	学旅行費預り資産		55,236	
(ウ)	卒	業諸費預り資産		5,768	
(エ)	未	収 入 金		90,444	
(オ)	借	1	点	2,258	
(カ)	電	15	基	1,286	
(キ)	施	3	点	214	
(ク)	差	し入れ保証金		350	
(ケ)	有	142,917.00	株	13,298	
(コ)	土	61,913.00	m ²	29,919	
(サ)	退	職給与引当特定資産		263,490	
(シ)	施	設設備拡充引当特定資産		1,534,117	
(ス)	第	2号基本金引当特定資産		0	
(セ)	長	期 前 払 金		2,373	
(ソ)	前	払 金		91	
(タ)	立	替 金		34,205	
(二)	負	債		696,334	
1.	固	定		263,346	
(ア)	長	期借入金		0	
(イ)	退	職給与引当金		263,346	
2.	流	動		432,987	
(ア)	短	期 借 入 金		0	
(イ)	未	払 金		59,113	
(ウ)	前	受 金		285,451	
(エ)	預	り 金		88,424	
(1)	職	員源泉等預り金		27,419	
(2)	修	学旅行費預り金		55,236	
(3)	卒	業諸費預り金		5,768	

正味財産の推移

